

環境報告書

Environmental Report 2013



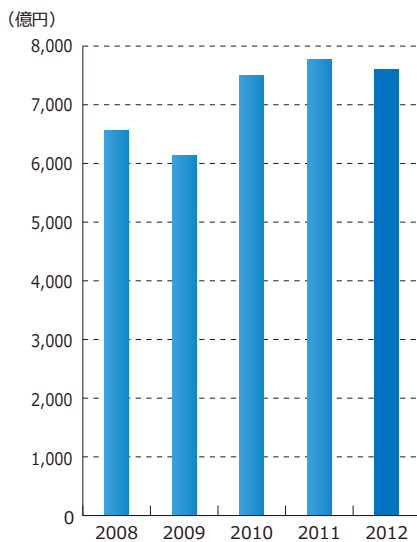
CONTENTS

1	■	会社概要/事業概要	……………	P02～04
2	■	トップコミットメント	……………	P05～06
3	■	グリーンコンセプト	……………	P07
4	■	環境マネジメント	……………	P08～12
5	■	環境会計	……………	P13～14
6	■	環境にやさしい製品開発	……………	P15～19
7	■	化学物質管理の取り組み	……………	P20～23
8	■	環境に調和したファクトリーへの取り組み	……………	P24～28
9	■	再資源化活動	……………	P29
10	■	環境コミュニケーション	……………	P30～32
11	■	環境パフォーマンスデータ	……………	P33～37
		あとがき	……………	P38

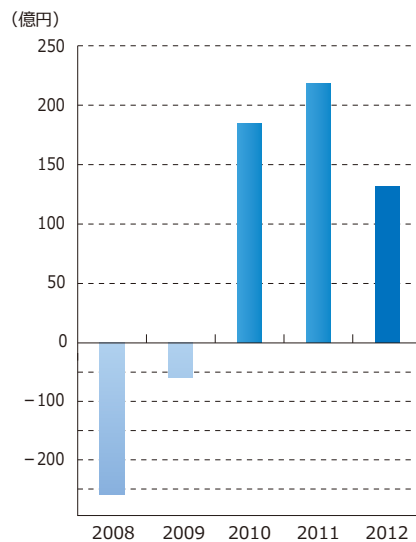


- [社 名] カルソニックカンセイ株式会社
 [本 社 住 所] 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
 [創 業] 昭和13年(1938年)8月
 [資 本 金] 415億円
 [連 結 子 会 社] 34社
 [持 分 法 適 用 会 社] 15社
 [上 場 証 券 取 引 所] 東京証券取引所市場第一部
 [事 業 分 野] 自動車および産業車両用部品の製造並びに販売

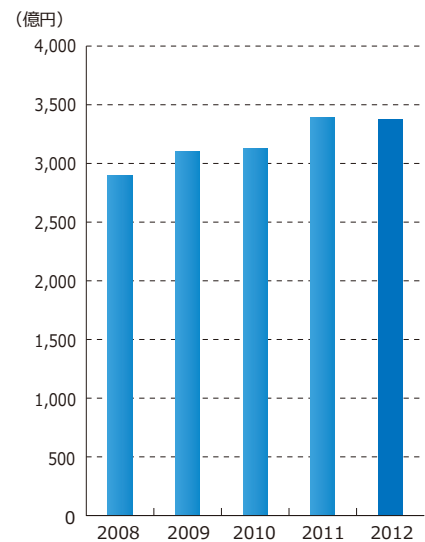
売上高



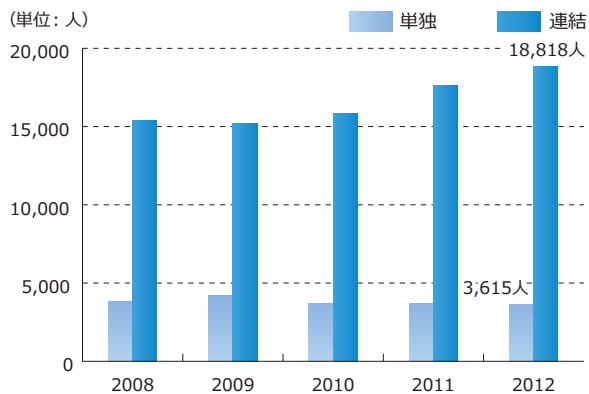
経常利益



総資産



従業員数



対象範囲

■ 組織

カルソニックカンセイ株式会社、
国内・海外関連会社

■ 期間

年間実績データの集計期間は2012年度
(2012年4月～2013年3月)ですが、
活動内容は2013年度も含みます。

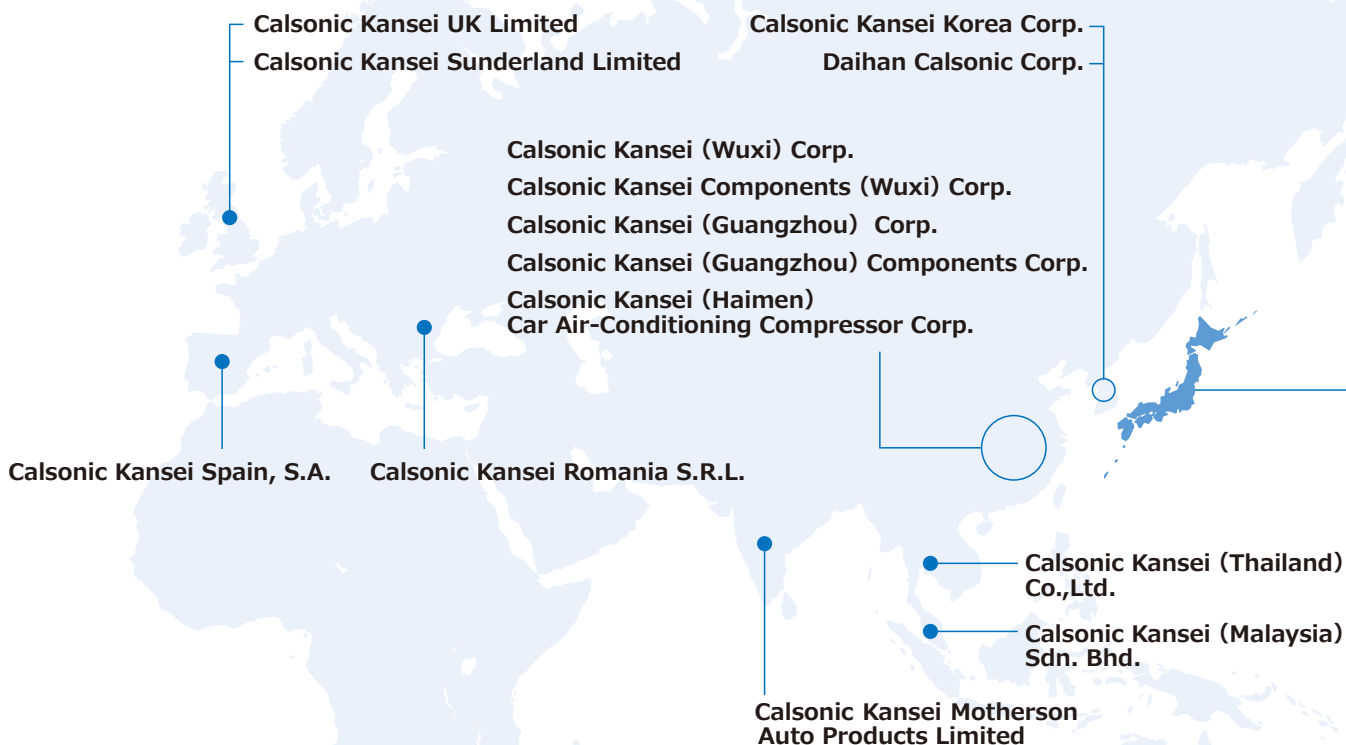
■ データ

原則として、環境マネジメントシステム対象会社
(100%子会社・連結会社)を対象としています。

【参考にしたガイドライン】

「環境報告ガイドライン」
「環境会計ガイドライン」

● カルソニックカンセイ環境マネジメント対象会社



● 主要製品

モジュール製品

モジュールという集合体でシステムやコンポーネントを設計開発することによって、部品点数の削減、軽量化、省燃費化が図れます。コックピットのモジュール化による室内スペースの増大は、その成果の代表例です。カルソニックカンセイは、モジュールをグローバルに提供できるサプライヤーとして、モジュールを自動車メーカーとともに開発、生産することにより、自動車メーカーからベストパートナーとして信頼されることをめざしています。



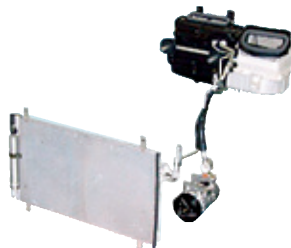
コックピットモジュール(CPM)



フロントエンドモジュール(FEM)

システム製品

地球と人に優しい快適空間の創出をモットーに空調システムに必要なヒーター、エアコン、インテークブローアなどの全システムや、消音性能・排気ガス浄化性能・エンジン出力性能など相反する要求を高次元でバランス良く実現する吸排気システムを開発生産しています。



エアコンシステム



排気システム

<日本>

カルソニックカンセイ(株)

(株) CKK

(株) CKF

(株) CKP

カルソニックカンセイ宇都宮(株)

カルソニックカンセイ岩手(株)

東京ラヂエーター製造(株)

カルソニックカンセイ山形(株)

Calsonic Kansei North America, Inc.

Calsonic Kansei Mexicana, S.A.de C.V.

単品（コンポーネント）製品

コンポーネントは、カルソニックカンセイのすべての製品の原点です。

私たちは、常に最先端のコンポーネントを生み出す技術開発に挑戦してきました。そして、技術を世界中で共有し、同一品質の製品をグローバルに供給するための体制を確立しています。これによって、常に市場ニーズを先取りし、お客様のすべての要求にえています。

CPM及び内装製品



インJECTION表皮



コンソールボックス

排気製品

排気マニフォルド
コンバーター

フレキシブルチューブ



エアコンユニット



ラジエーター



マフラー

コンプレッサー製品



固定容量タイプ



可変容量タイプ



モーターファン



コンデンサー

電子・電装製品

ボディコントロール
モジュール

メーター

コントロール
(集中スイッチ)

2 トップコミットメント

『グローバルな自動車関連企業として、
世界をリードする技術革新とものづくりに情熱を持って取り組み、
持続可能な社会の実現に貢献します。』



代表取締役社長

森谷 弘史



環境担当役員 取締役副社長

藤崎 彰

中期経営計画『CK GX4 T10』で、 世界をリードする環境技術/製品の創出を行っていきます。

カルソニックカンセイは、中期経営計画を2011年7月に発表致しました。これは、『CK GX4 T10(シーケー ジーバイフォー ティーテン)』の呼称で、2011年～16年までに『4つのG』すなわち、Green・Growth・Global・Great Companyをキーとした成長戦略の実行により、『T10の実現』をするというものです。FY13は中計3年目としてロードマップの着実な実行を推進いたします。

■ Green

世界をリードする環境技術/製品の創出を行っていきます。トータルエネルギーマネジメント技術をコアとした技術シナジーにより、次世代環境製品で業界をリードします。

■ Growth

マーケット戦略、成長を支える製品/技術戦略、地域戦略により、小型車/低価格車需要の取り込みを行い、また、新興国での事業を拡大します。

■ Global

Globalな組織運営/業務プロセス標準化、ものづくり力の強化を通じてグローバルビジネスリーダーとなる人材の育成、ダイバーシティに富む組織/文化の醸成を進め、真のGlobal化を実現します。

■ Great Company

Green、Growth、Global、の取り組みを総合的に進め、Great Companyにふさわしい企業基盤を確立し、3つの「T10の実現」をします。

T10の実現

- ① 世界をリードする環境対応新製品を10製品創出します。
- ② 売上高Globalトップ10を実現します。
- ③ 営業利益のレベルでもGlobalトップ10を実現します。

私どもカルソニックカンセイは『グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする技術革新とものづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献する』ことをコーポレートビジョンとして掲げております。中期経営計画の達成により、グローバルで信頼される企業となるために、総合自動車部品メーカーとして、開発・設計から生産・物流に至るまで全社一丸となって、環境保全活動を推進いたします。



Vision Mission Value



A *global* automotive company, *inspired* to be *world-leading in innovation* and *Monozukuri*, while contributing to a *sustainable society*

グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする革新とものづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します

Global · Inspired · World Leading Innovation · Sustainable Society


Driven by Inspiration and Innovation

地球環境保全への取り組み

2011年度に策定した中期環境行動計画「CKGP2016」(カルソニックカンセイグリーンプログラム2016)にて、ハイレベルな環境保全目標を設定し、グループを挙げて計画の完遂をめざしております。

2012年度は京都議定書第一約束期間(2008～12)の最終年度であり、日本の目標値1990年度比6%削減に対して、2012年度で44.5%削減、5年間の平均で38.4%削減と目標を大幅に過達しました。

これは、全員参加の省エネ活動推進やスマートメーター、LED照明等の省エネ投資は勿論、グローバルでの省エネ診断や、生産量が減少傾向の国内工場の再編等、攻めの省エネ対策を果敢に推進してきた成果です。

弊社は常に環境配慮と経済合理性の両立を実現させるべく、従業員全員が日常業務の中で一貫して環境に配慮した行動を実践することで地球環境保全活動に取り組んでおります。

● 環境マネジメント

2011年度より、グローバル環境統括会議を設置し活動組織を強化致しました。従来の製品環境委員会、生産技術環境委員会、環境エネルギー委員会、環境コミュニケーション委員会の4委員会体制に、北米、欧州、中国、日本の4リージョンを追加し、グループ会社全体で環境方針/計画を共有しました。グループ会社の環境責任者が参加する連絡会を密にして、グループ全体の取り組みを強化しています。また、これまでISO14001の対象外としていた研究開発センター・本社も昨年6月にキックオフし、本年1月に認証登録を完了して本社・全従業員参加の環境保全体制を構築しております。

● 環境配慮型の製品開発

中期経営計画の中で、Greenを設定して世界をリードする環境技術/製品の創出を行ってまいります。これまでの成果として、インジェクション表皮、EGRクーラーの2件の技術開発・製品化を完遂しております。

● 地球の温暖化防止、CO₂排出量削減

国内工場のCO₂総排出量削減は、日本自動車部品工業会の目標に準拠した「2008年度から2012年度まで平均で1990年度比7%削減」に対して5年間の平均で38.4%削減と大幅に過達しました。

これは、MTCR(モノツクリチャレンジランナー)活動及び、全工場の省エネ担当者で特別チームを編成し省エネ診断や改善事例の水平展開実施等、CKグループが一丸となって省エネ対策を実行した成果です。

● ゼロエミッション

かけがえのない地球からの恵みを生産活動の資源として用いる製造業として、資源を有効に活用するため、最終処分量をゼロに近づける活動“ゼロエミッション”活動を日常業務として捉え、グループグローバル全拠点でのゼロエミッションの達成、維持向上活動を推進しています。また、今年度より新たに海外拠点のZero Landfill(埋立廃棄物ゼロ)の達成期限を2015年度と設定し、グローバルでの“ゼロエミッション”達成に向けた活動の促進と体制の強化を図っております。

社会への貢献・地域との共生

カルソニックカンセイでは社会に対する環境面に於ける情報の開示はもちろん、カルソニックカンセイを支える多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションにつとめることにより、互いに親交を深め、信頼出来る社会構築に貢献します。

また、地域社会に貢献するだけでなく、私たちグループの従業員一人ひとりが地域社会の身近な環境課題と向き合うことにより、地域社会の皆様と共に環境に配慮したいと考えています。

本報告書をお読みいただく皆様へ

資源保護の観点にて、紙媒体の発行を廃止し、Webでの掲載のみとさせて頂いております。環境報告書は皆様との最大のコミュニケーションツールと考えておりますので宜しくお願い致します。

社会と調和しつつ持続的な発展をするために、お客様の声や反響を真摯に清聴することを基本とし、改善すべき課題は一つひとつ取り組み解決を図って行きたいと考えております。多くの皆様方にご覧いただき、カルソニックカンセイグループが目指す環境への取り組みや活動に対してご理解をいただき、是非とも忌憚のないご意見をお寄せください。皆様の意見を活かすことにより、更なる環境改善とコミュニケーションの深化を図ってまいります。

2013年9月

テクノロジーシナジー

製品特徴と技術の融合により、次世代環境製品で業界をリード

Power Electronics
ADVANTAGE

- 高効率熱交換システムと、パワーデバイスの融合による小型化の実現
- 車載製品に要求される高い信頼性確保についての実績と知見

Thermal Energy Recycle
ADVANTAGE

- 排熱エネルギーの無駄のないサイクルによりHEV/(P)HEV車のエネルギー効率の向上
- 世界トップレベルの熱交換効率

Power Saving Climate Control System
ADVANTAGE

- 熱交、排気、空調コンポーネント技術の融合
- シーンに応じた熱バランス制御
- 快適性評価技術

技術

電子制御技術

熱交換技術

空調技術

排気制御技術

製品例


Inverter Module


Battery Controller


Brushless Motor


Oil Warmer


EGR Cooler

3 グリーンコンセプト

Green Concept

カルソニックカンセイグループは自動車部品を製造する専門企業グループとして、グループ一体となって環境保全活動を推進しています。

環境方針(1993年4月制定)

この方針は、カルソニックカンセイグループの全ての活動における基本的な考えであり、これに基づき、人類共通の課題である環境保全活動を推進いたします。グループグローバルで環境方針を共有し、環境方針に基づく活動において、環境配慮を実現することにより、社会、お客様他、ステークホルダーの皆様からの信頼をいただき、“持続的な発展が可能な社会”実現に向けて努力いたします。

環境理念

『カルソニックカンセイは、快適な自然環境を創造するため、一人ひとりが常に自然の原点に立ち還ると共に、新たな技術統合による知的革新を通じて地球環境保全に努め、心豊かな社会の発展に貢献してまいります。』

環境基本方針

『企業活動の全段階において環境保全に努め、豊かな社会の発展に貢献する。』

環境方針

- ①地球環境の保全活動を推進する組織の整備。
- ②環境マネジメントシステムの充実と継続的改善。
- ③環境に関する法令等の順守。
- ④環境監査の実施。
- ⑤省資源・省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルの実施。
- ⑥有害規制物質等の削減・全廃。
- ⑦環境配慮型製品の開発。
- ⑧物流合理化の推進。
- ⑨グループ拠点の環境保全、日本と同レベル。
- ⑩環境情報の積極的な開示。

ビジョン・ミッション・バリュー

ビジョン・ミッション・バリューは、当社がGX4 T10を通じGreatな会社となる方向性を示したものです。

コーポレート・ビジョン(我々の存在意義)

『グローバルな自動車関連企業として、世界をリードする技術革新とものづくりに情熱を持って取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。』

ミッション・ステートメント(我々の使命)

1. グローバル(Global)

私たちは多様な考え方を尊重し、ダイナミックな行動により、世界有数の自動車部品メーカーとしてのブランドを構築します。

2. 夢・情熱(Inspired)

私たちは、我々の共通の価値観をベースに、誇り、夢、情熱を持つひとつのチームとなります。

3. 世界をリードする革新性(World Leading Innovation)

私たちは、創造性とのづくり精神を融合し、高品質の製品とプロセスで、市場をリードする価値をお客さまに提供します。

4. 持続可能な社会に向けて(Sustainable Society)

私たちは、よき企業市民として、株主・地域社会・チーム・メンバーに価値を提供し続けることにより、社会的責任を果たします。

CK WAY(従業員一人ひとりが実行する行動指針)

CK WAYは、コーポレートビジョン達成に向けた従業員一人ひとりが実行する行動指針です。CKグループの持続的な成長に欠かすことの出来ないゾウの源泉であり、従業員一人ひとりが実践していくことが大切です。



Individual 個人

- Challenge 挑戦
- Independence 自律
- Learning 学ぶ

Task 実行

- Fact-Driven 事実を捉える
- Continuous 継続性
- Commitment & Target コミット&ターゲット

Team チーム

- Cross Function / Cross Region クロスファンクション/クロスリージョン
- People Oriented 人への愛着
- Diversity ダイバーシティ
- Transparency 透明性

4 環境マネジメント

Environmental Management

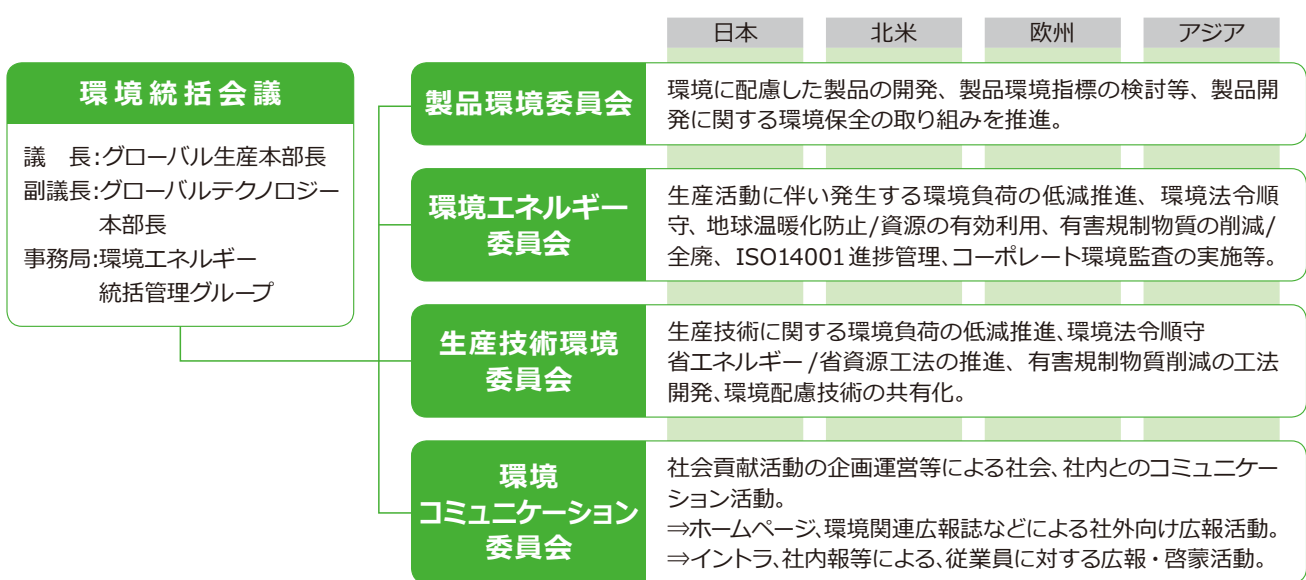
カルソニックカンセイでは、グローバルで環境改善の目標を持って、従業員一人ひとりが環境に配慮した行動ができるよう、環境マネジメントを推進いたします。

1 グループ環境マネジメント推進体制

2011年度からは、グローバルでの環境マネジメントをより一層推進するため、従来の環境統括会議をグローバル環境統括会議として位置づけ、開催しています。

環境マネジメントは、各委員会での環境行動計画の設定、環境統括会議での計画の審議・決定及び重要テーマのフォローアップ、設定した計画の確実な実行といった目標の設定から実行までの活動状況を進捗レビューするシステムを構築し推進しています。

組織体系と各委員会の役割



2 カルソニックカンセイグリーンプログラム 2016 について

2011年～2016年の中期計画として、次の目標を掲げて活動して参ります。

カルソニックカンセイグリーンプログラム(CKGP) 2016 目標

項目	目標						
	分類	地域	目標達成時期	FY12目標	FY12実績	FY13目標	FY16目標
CO ₂ 排出量削減 (エネルギー使用量の削減) ●生産・物流CO ₂ 排出原単位削減(排出量/売上高) ●オフィスCO ₂ 原単位削減(排出量/床面積)	生産CO ₂	日本	上段 単年度 下段 中期	FY11比 2%減 FY05比 29.3%減	FY11比 5%増 FY05比 28.5%減	FY12比 2%減 FY05比 30.7%減	FY05比 34.7%減
		北米、欧州、アジア	上段 単年度 下段 中期	FY11比 2%減 FY05比 4.7%減	FY11比 2.9%減 FY05比 10.4%減	FY12比 2%減 FY05比 6.0%減	FY05比 9.7%減
	物流CO ₂ 輸送量トンキロ	日本	上段 単年度 下段 中期	FY11比 1%減 FY10比 18%減	FY11比 15.1%減 FY10比 23.2%減	FY12比 1%減 FY10比 19%減	FY10比 22%減
	オフィスCO ₂	日本	上段 単年度 下段 中期	FY11比 1%減 FY10比 2%減	FY11比 0.4%減 FY10比 1.09%減	FY12比 1%減 FY10比 3%減	FY10比 6%減
資源循環 ●排出原単位削減(排出量/売上高)	排出物(廃棄物+有価物)	日本	上段 単年度 下段 中期	FY11比 2%減 FY05比 20%減	FY11比 0.3%増 FY05比 26.3%減	FY12比 2%減 FY05比 22%減	FY05比 28%減
		北米、欧州、アジア	上段 単年度 下段 中期	FY11比 1%減 FY10比 2%減	FY11比 6.2%増 FY10比 2.1%増	FY12比 1%減 FY10比 3%減	FY10比 6%減
水・大気・土壌・生物多様性の保全 ●使用量原単位(使用量/売上高)	水使用量	日本	上段 単年度 下段 中期	FY11比 1%減 FY09比 17.1%減	FY11比 15.1%増 FY09比 17.5%減	FY12比 1%減 FY09比 18.2%減	FY09比 21.4%減
	PRTR	日本	上段 単年度 下段 中期	FY11比 1%減 FY10比 2%減	FY11比 5.1%減 FY10比 19.7%減	FY12比 1%減 FY10比 3%減	FY10比 6%減
Zero Landfill (埋立て廃棄物ゼロ) ●埋立率削減(埋立量/廃棄物量)	埋立て廃棄物	北米、欧州、アジア	中期	-	84.2%	50%	0% (FY15ゼロ達成)

3 環境行動計画（2012年度の目標と実績）

カルソニックカンセイグループでは、『グローバル環境統括会議』及び『環境エネルギー委員会』を年二回開催し、対応状況や改善事例などの情報を交換し、グループ全体の取り組みを強化しています。

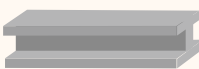



重点課題	中期活動計画	
環境マネジメントの推進	グループグローバル 全工場のISO14001認証取得と維持向上	
	グループグローバルでの環境推進体制強化	
	環境リスクマネジメントの充実	土壌地下水の浄化と汚染防止 排水水質管理の徹底
	コミュニティパートナーシップ活動	生産部門の環境に関する取り組みをアピールし、地域コミュニティからの信頼を獲得する活動の充実 充実度100%の維持
	グリーンパートナーシップ活動	生産部門の3つの環境クリーンチェーン活動(CO ₂ 削減・資源有効利用・環境負荷物質削減)及び環境事故防止活動を協力会社とも連携して取り組み活動の充実 充実度100%の維持
生産活動での環境負荷削減	CO ₂ 排出量削減(エネルギー使用量の削減)	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素(CO₂)排出量の削減(日本自動車部品工業会・環境自主行動計画) 日本を対象に1990年度を基点に2008~2012年度平均で、CO₂排出量7%削減、CO₂排出量原単位20%削減 ・二酸化炭素(CO₂)排出量の削減(CKGP2016) CO₂排出原単位(CO₂排出原単位=総排出量/売上高)を2016年度までに2005年度比で日本は34.7%削減、北米・欧州・アジアは9.7%削減
	資源循環	<ul style="list-style-type: none"> ・排出物(廃棄物及び利材)の削減(CKGP2016) 排出物原単位(排出物総排出量/売上高)を2016年度までに日本は2005年度比で28%削減、北米・欧州・アジアは2010年度比で6%削減
	水・大気・土壌・生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷物質使用量の削減(CKGP2016) 環境負荷物質原単位(PRTR使用量/売上高)を2016年度までに2010年比で日本は6%削減 ・水使用量の削減(CKGP2016) 水使用量原単位(水使用総量/売上高)を2016年度までに2009年度比で日本は21.4%削減
	環境に配慮した製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> 法規/客先要求を順守し、製品に使用されている化学物質の禁止及び削減(欧州ELV指令:電気用途・鉛はんだ2010年12月末廃止)(欧州REACH規則の対応) 廃棄物削減(リサイクルしやすい製品開発) 地球温暖化防止(省燃費・省動力) 大気汚染防止(排ガス浄化) 騒音防止(排気騒音低減)
	環境配慮型製品の評価	
グリーン調達	グリーン調達の拡大	
環境コミュニケーション	環境活動の積極的な開示	

2012年度計画	2012年度実績	関連頁
ISO14001活動の質的向上	2013年1月研究開発センター・本社、2012年11月カルソニックカンセイ山形㈱にて認証登録 日本全サイトに対して、CK版環境パフォーマンス監査の実施	12
カルソニックカンセイグループ環境マネジメント推進体制の充実	カルソニックカンセイ環境統括会議の推進強化 CKGr環境事故発生時の緊急連絡網の充実 (水平展開実施率100%)	8
土壌地下水保全の継続、拡大	既発生工場対策の徹底と未然防止対策の徹底	23
目標値を規制値の0.8とする自主基準の設定による排水水質/工場排気の管理	自主目標値をクリア	22
コミュニティパートナーシップ充実度(実評価点/基準評価点)100%	コミュニティパートナーシップ充実度100% 近隣住民・事業者、行政参画による環境リスクコミュニケーションの実施 事業所周辺の清掃の実施 工場見学・インターンシップとして地元小中高生の受入、出前授業等	30~32
グリーンパートナーシップ充実度(実評価点/基準評価点)100%	グリーンパートナーシップ充実度100% 協力会社に対して緊急時対応教育の実施 環境事故の事例防止対策教育の実施	
日本を対象に1990年度を基点に排出量を2012年平均で7%削減 (カルソニックカンセイ(株)+(株)CKK+(株)CKF)	CO ₂ 排出量44.5%削減、CO ₂ 排出量原単位56.9%削減 京都議定書第一約束期間(2008-2012)の目標値1990年比6%削減に対し、2012年度で44.5%削減、5年間の平均で38.4%削減と目標を大幅に過達	
CO ₂ 排出原単位を日本は2011年度比2%削減(2005年度比29.3%削減) 北米・欧州・アジアは2011年度比2%削減(2005年度比4.7%削減)	日本は2011年度比で5%増加(2005年度比28.5%削減)、 北米・欧州・アジアは2011年度比で2.9%削減(2005年度比10.4%削減)	24~28
排出物原単位を日本は2011年度比2%削減(2005年度比20%削減) 北米・欧州・アジアは2011年度比1%削減	日本は2011年度比で0.3%増加(2005年度比26.3%削減)、 北米・欧州・アジアは2011年度比で6.2%増加	
環境負荷物質原単位を日本は2011年度比で1%削減	日本は2011年度比で5.1%削減(2010年度比19.7%削減)	22
水使用量原単位を日本は2011年度比で1%削減(2009年度比17.1%削減)	日本は2011年度比で15.1%増加(2009年度比17.5%削減)	28
車室内VOCの低減の推進 鉛フリーはんだの採用推進 欧州REACH規則の対応	車室内VOCの低減を継続 鉛フリーはんだを一部車種に採用 欧州REACH規則の対応活動の実施	20~21
客先への材料データの迅速な開示	客先指示通りの対応を実施(IMDSで対応)	
リサイクルしやすい製品開発の推進	コックピット・フロントエンドモジュール、ハードインストリームレス、無塗装インストルメントパネル	
軽量化、省燃費省動力製品開発の推進	インジェクション表皮、EGRクーラー、コックピット・フロントエンドモジュール、小型高性能空調システム、エアコン用可変容量コンプレッサー、ステアリングメンバー、基板ハーネス、ビルトインオイルクーラー、EV用インバーター、EV用バッテリーコントローラー、軽量ラジエーター、チャージエアクーラー、ブラシレスモーター	15~19
排ガス浄化促進製品開発の推進	新構造メタル担体 尿素水タンク、DPF	
排気騒音低減製品開発の推進	低騒音エキゾーストシステム	
環境配慮型製品づくりの推進 関連指標のデータベース化の推進	環境配慮型製品指標の考え方を社内に展開し、運用製造段階でのCO ₂ 算出システムを推進	
グリーン調達ガイドラインの内容充実	お取引先様に対する合意書への同意の推進	23
環境報告書の充実	環境報告書発行による活動と成果の幅広いPR	
社外に対する広報活動の充実	HPの『環境情報』コーナーを充実 『中間報告書』で株主に環境活動をPR	30~32

4 事業活動と環境負荷 ⇒ マスバランス

無印:カルソニックカンセイ(株) +国内・海外関連グループ
●:カルソニックカンセイ(株) +国内関連グループ






インプット

原材料	エネルギー	水	化学物質
			
原材料トータル	エネルギートータル	水トータル	化学物質トータル
188,114 t ● 61,792 t	4,144,383,555 GJ ● 1,525,736,657 GJ	1,189 千m ³ ● 647 千m ³	● 222 t
鉄材料	電力	上水道	
45,727 t ● 14,207 t	415,623 Mwh ● 153,005 Mwh	550 千m ³ ● 213 千m ³	
非鉄金属材料	特A重油	工業用水	
83,600 t ● 37,271 t	1,006 KL ● 1,006 KL	118 千m ³ ● 12 千m ³	
樹脂材	軽油	地下水	
56,720 t ● 9,901 t	71 KL ● 52 KL	521 千m ³ ● 422 千m ³	
その他	灯油		
2,067 t ● 413 t	228 KL ● 225 KL		
	都市ガス		
	8,476 千m ³ ● 1,897 千m ³		
	LPG		
	3,731 t ● 2,817 t		
	ガソリン		
	90 KL ● 13 KL		

カルソニックカンセイ+関連グループ

プレス 溶接 樹脂成形 塗装 機械加工 組立

アウトプット

再利用	温室効果ガス	大気への排出ガス	水系への排出	化学物質
				
再利用材料	CO₂	SO_x	排水	化学物質トータル
29,362 t ● 10,145 t	190,327 t CO ₂ ● 74,131 t CO ₂	● 0.42 t	● 366 千m ³	● 110 t
廃棄物	CO₂以外	NO_x	BOD	トルエン・キシレン
1,873 t ● 56 t	0 t ● 0 t	● 3.60 t	● 1.60 t	● 86 t
		ばいじん		その他
		● 0.13 t		● 24 t

5 ISO14001 環境マネジメントシステムの構築

ISO14001 認証取得の推進

- カルソニックカンセイグループでは、1998年から環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証取得を推進してきました。カルソニックカンセイ全工場、実験拠点である実験研究センター、研究開発センター・本社、国内、海外関連製造会社は新設を除き、すべて認証取得を完了し、グローバルでより確かな環境マネジメントを推進しております。
- 研究開発センター・本社では2012年6月にキックオフし、2013年1月に認証登録を完了して全社・全従業員参加の環境保全体制を構築しております。

自社 取得状況		
	事業所名	初回登録年月
国内	群馬工場	1998年 10月
	児玉工場	1999年 1月
	追浜工場	1999年 2月
	吉見工場	2001年 12月
	実験研究センター	2003年 1月
	研究開発センター・本社	2013年 1月

主要海外関連会社 取得状況		
	会社名	初回登録年月
北米	北米カルソニックカンセイ社 シェルビービル工場	2001年 9月
	北米カルソニックカンセイ社 ルイスバーグ工場	2002年 9月
	カルソニックカンセイ・メキシコ社 アグアスカリエンテス工場	2005年 3月
	カルソニックカンセイ・メキシコ社 サンフランシスコ工場	2005年 3月
欧州	カルソニックカンセイ・サンダーランド社	1999年 9月
	カルソニックカンセイ・ユークー社 ワシントン工場	1999年 10月
	カルソニックカンセイ・ユークー社 スラネスリー工場	2002年 1月
	カルソニックカンセイ・スペイン社	2000年 2月
アジア	カルソニックカンセイ・ルーマニア社	2008年 11月
	大韓カルソニック社	2004年 4月
	カルソニックカンセイ・コリア社	2004年 10月
	カルソニック・カンセイ・マレーシア社	2007年 8月
	カルソニックカンセイ(無錫)社	2007年 8月
	カルソニックカンセイ(無錫)コンポーネンツ社	2008年 11月
	カルソニックカンセイ(広州)コンポーネンツ社	2009年 1月
	カルソニックカンセイ(海門)社	計画中
	カルソニックカンセイ・タイランド社	2011年 8月
	カルソニックカンセイ・マザーソンオートプロダクツ社	計画中

主要国内関連会社 取得状況		
	会社名	初回登録年月
国内	カルソニックカンセイ岩手(株)	1998年 6月
	(株)CKK	1999年 3月
	カルソニックカンセイ宇都宮(株)	1999年 5月
	(株)CKF	1999年 12月
	東京ラヂエーター製造(株)	2003年 3月
	(株)CKP	2004年 3月
	カルソニックカンセイ山形(株)	2012年 11月

研究開発センター・本社 外部審査



カルソニックカンセイ山形(株) 外部審査



環境マネジメントシステムの継続的改善

環境マネジメントシステムのレベル向上を図るため、各拠点での内部監査員を拡充すると共に、本社の環境エネルギー統括管理グループが中心となった内部監査や審査機関による外部監査を定期的を実施しています。

5 環境会計

カルソニックカンセイグループでは、環境活動を定量的に評価し、公表するツールとして環境会計を導入しております。

環境保全コストとその活動による効果や環境保全対策に伴う経済効果を定量的に集計し、公表するための仕組みとして環境会計に取り組み、環境報告書上で公表することでさまざまな利害関係者へ事業活動の説明責任を果たしています。

定量的な集計・評価を確立し、持続可能な事業経営の実践に役立てています。

それに対する効果などを定量的に集計し、環境会計として環境報告書を通して社会に公表しています。また、定量的に集計したものを評価することにより環境マネジメントの実践に役立てています。

1 カルソニックカンセイグループにおける環境会計の目的

1

定量的な測定結果を、地域住民、株主他、社会全体に積極的に開示することにより、当社の環境活動に対する透明性を高め、理解していただくことを目指します。

2

企業活動と環境活動全体とのかかわりを物量、費用両面から把握、数値化することにより、今後の環境活動を効果的に推進するための判断材料といたします。

3

従業員の意識向上として、社員全員が日常の仕事を通して環境面での認識を高め、定着、発展させていくためのシステムとしております。

2 2012年度の状況

環境保全コスト

環境保全コストは、環境側面における活動に関する投資と費用を金額単位で測定しております。

(単位:百万円)

環境保全コスト

分類	投資			費用		
	2011年	2012年	増減	2011年	2012年	増減
1. 環境負荷低減のための事業エリア内コスト	167	129	△ 38	628	820	192
公害防止コスト	86	23	△ 63	241	208	△ 33
地球環境保全コスト	81	76	△ 5	57	77	20
資源循環コスト	0	30	30	330	246	△ 84
2. 上下流コスト	0	0	0	127	129	2
3. 管理活動コスト	0	4	4	159	133	△ 26
4. 環境研究開発コスト	310	364	54	3,758	3,828	70
5. 社会活動コスト	0	0	0	2	6	4
6. 環境損傷対応コスト	0	0	0	34	15	△ 19
合計	477	497	20	4,708	4,931	223

環境保全効果

環境保全効果は、環境負荷の抑制量で評価する物量効果と金額で評価する経済効果の両面から評価しております。

環境保全対策に伴う物量効果

分類	2011年	2012年	効果
1. 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果(量)			
エネルギー総使用量CO ₂ 換算(t)	202,511	199,402	3,109
水使用量(千m ³)	1,250	1,272	△ 22
2. 事業活動から排出する廃棄物に関する環境保全効果(量)			
総発生量(t)	34,373	31,236	3,137
リサイクル量(t)	31,820	29,362	2,458
最終処分量(埋立て量)(t)	2,553	1,873	680
PRTR物質(排出・移動量)(t)	118	110	8

環境保全対策に伴う経済効果

経済効果は、環境活動に伴う費用の節減額(省エネ活動に伴う実質効果等)、環境配慮の活動に伴う収入額(有価物売却収入等)を効果として計上しております。

(単位:百万円)

分類	2011年	2012年	効果
3. 環境保全対策に伴う経済効果	13,359	11,817	△ 1,542
省エネルギー額	140	139	△ 1
水使用量削減額	3	3	0
有価物売却収入	1,016	966	△ 50
環境配慮型製品売上高	12,200	10,709	△ 1,491

基本事項

1. 対象期間: 2011年度(2011年4月～2012年3月)
2012年度(2012年4月～2013年3月)

2. 集計範囲: カルソニックカンセイ

群馬工場
追浜工場
吉見工場
児玉工場
実験研究センター
研究開発センター・本社

国内関連会社

(株)CKK
(株)CKF
(株)CKP
カルソニックカンセイ宇都宮(株)
カルソニックカンセイ岩手(株)
カルソニックカンセイ山形(株)
東京ラヂエーター製造(株)

海外関連会社

北米 北米カルソニックカンセイ社
カルソニックカンセイ・メキシコ社
欧州 カルソニックカンセイ・ユーケー社
カルソニックカンセイ・サンダーランド社
カルソニックカンセイ・スペイン社
カルソニックカンセイ・ルーマニア社
アジア 大韓カルソニック社
カルソニックカンセイ・コリア社
カルソニックカンセイ・中国各社
カルソニックカンセイ・タイランド社
カルソニックカンセイ・マレーシア社
カルソニックカンセイ・マザーソン・オートプロダクツ社

3. 集計方法: 環境省発行の環境報告ガイドラインに原則、準拠し、集計算出しております。

6 環境にやさしい製品開発

カルソニックカンセイは、2011年7月に発表した中期経営計画において“Green”という目標を掲げています。これは世界をリードする環境技術/製品を創出することにより、次世代環境製品で業界をリードすることを目標にしています。

そして、“環境にやさしい製品開発”をコンセプトに、製品のライフサイクル全体で発生する環境負荷低減をめざした製品開発に努めています。

環境にやさしい製品の開発に当っては、省燃費/省動力、小型/軽量化、リサイクルの容易化、有害物質の不使用/極小化など、配慮すべき要件があり、これら要件を製品へ適応するためには、開発の初期段階からの配慮が必要となります。現在、最も環境に配慮した車である電気自動車向け製品の開発を推進しています。

カルソニックカンセイでは開発の初期段階からQ・C・D・特許面での評価に加え、環境側面(E)での評価も行うことにより、環境配慮型製品の開発を推進いたします。

1 環境課題に対するカルソニックカンセイの取り組みと製品



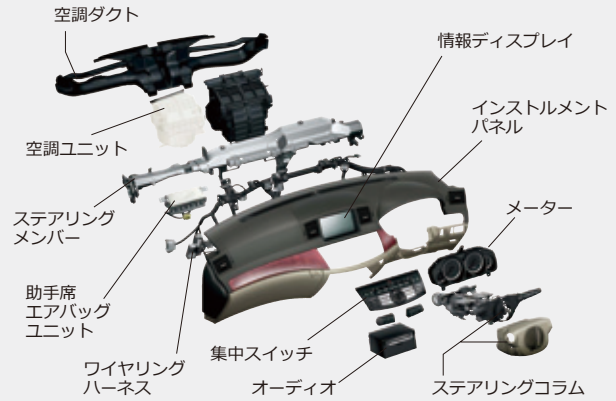
2 モジュール化による環境負荷のトータルな低減



フロントエンドモジュール

ラジエーターコアサポートを支柱にラジエーターとコンデンサー各種熱交換器等フロントエンド廻りの部分を一体化させたものです。省スペース化、車両組立性と易解体性等を向上させています。

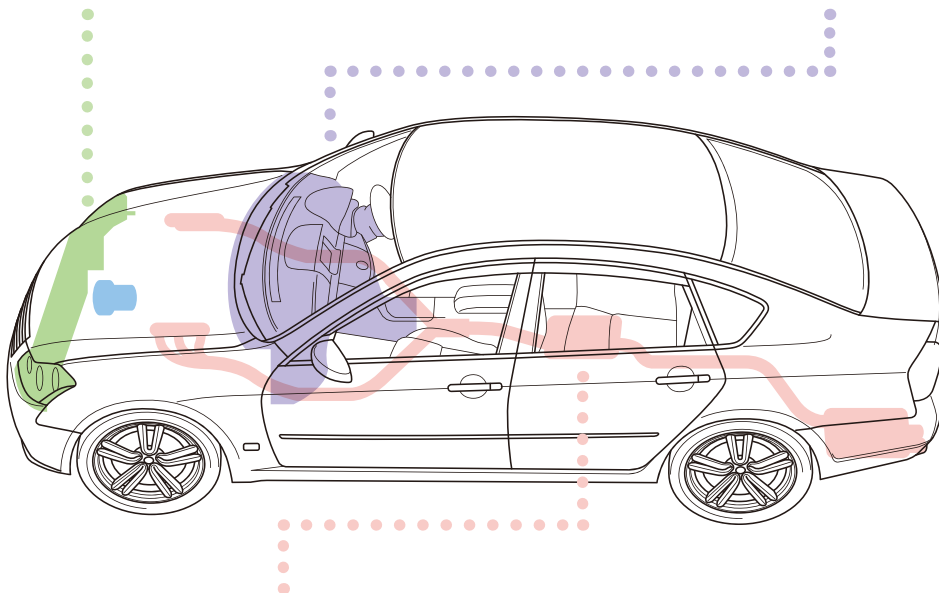
部品点数削減	35%~50%
重量低減	5%~20%



コックピットモジュール

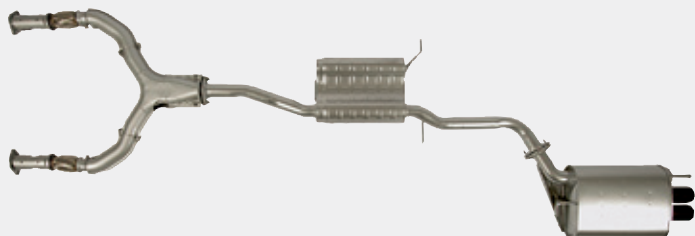
ステアリングメンバーを骨格にインストルメントパネル、メーター、空調ユニット、エアバック、電子コントロールユニット等を結合させたものです。軽量化、リサイクル性をキーワードに開発に取り組んでいます。

構成部品の締結点数削減	35%
構成部品の点数削減	18%
重量低減	5%



エンジンエキゾーストモジュール

エキゾーストマニホールドから触媒コンバーター、センターマフラー、リヤマフラー、フィニッシャーに至るまでのシステムで、排気ガス浄化等に最適な開発を行なっています。



3 G × 4 (Green) 環境型製品の市場投入

FY11～12において、環境型製品2種類を市場投入致しました。

■ インジェクション表皮



インジェクション表皮インストルメントパネル

- 製造時の熱効率が良く、CO₂排出量も少ない
(パウダー成形比 58%減)
- 材料歩留まりが良く、廃材の排出が少ない
(真空成形比 2.7倍)

■ EGRクーラー

EGR : Exhaust Gas Recirculation (排出ガス再循環)



- エンジンの排気を燃焼室に戻す際に排気を冷却する熱交換器
- エンジンの吸入時のポンプ損失を軽減し、燃費が改善できる

4 地球温暖化防止

製品の小型軽量化、省燃費・省動力製品の開発により、製品が車両に与えるエネルギーの効率化を図り、車両の燃費向上に貢献しています。特に製品の軽量化については多くの製品で効果を上げています。

自動車部品の小型、軽量化製品

ブラシレスモーター

サイズ低減

20%



メインマフラー

重量低減
(当社従来品比)

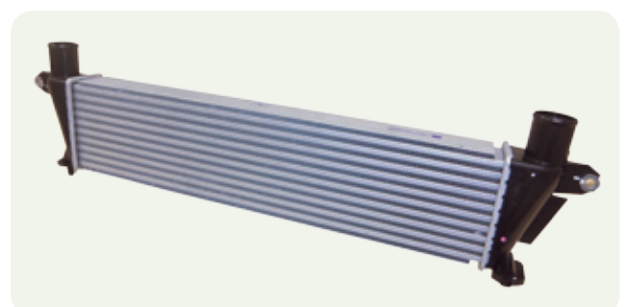
10%



省燃費、省動力、省電力製品の開発

■ 64厚チャージエアクーラー

チャージエアの抵抗を30%低減(当社従来品比)、耐熱性を向上し、省燃費およびディーゼル車の排ガス規制に対応しています。



■カーエアコン用コンプレッサー

カルソニックカンセイでは、連続可変による省動力を可能にした可変容量式斜板コンプレッサー、シンプル形状による小型軽量を可能にした固定容量式ベーンロータリーコンプレッサーを取り揃え、省燃費/省動力、CO₂削減等の環境配慮に貢献しています。また、EV(電気自動車)向けコンプレッサーの開発も進めています。

固定容量コンプレッサー CR06



可変容量コンプレッサー CSV617

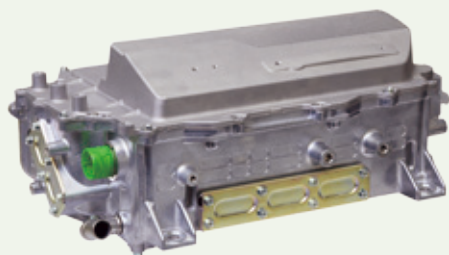


■EV用インバーター、バッテリーコントローラー

インバーターは、高効率な制御技術とクイックなレスポンス性能が特徴です。

バッテリーコントローラーは、リチウムイオンバッテリーの状態監視および制御を行なう製品です。

EV用インバーター



EV用リチウムイオンバッテリーコントローラー



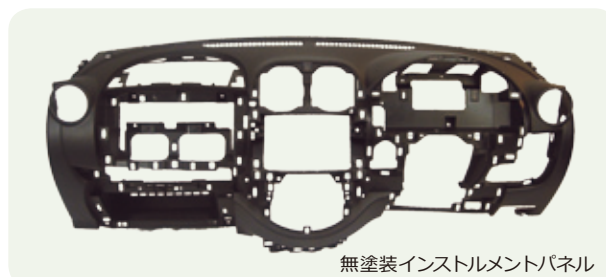
代替化技術の開発

■代替冷媒エアコンシステムの開発

現在のカーエアコン用冷媒は、地球温暖化の影響が懸念されるため、地球温暖化係数が非常に小さい代替冷媒を用いたエアコンシステムの開発に取り組んでいます。

5 地球資源の有効活用

カルソニックカンセイでは、製品当りの材料の種類削減等による易解体性/リサイクル性向上製品の開発、新規使用資源量の低減を目的とした製品開発に取り組んでいます。



無塗装インストルメントパネル

6 大気汚染防止 - 車の排気ガス浄化

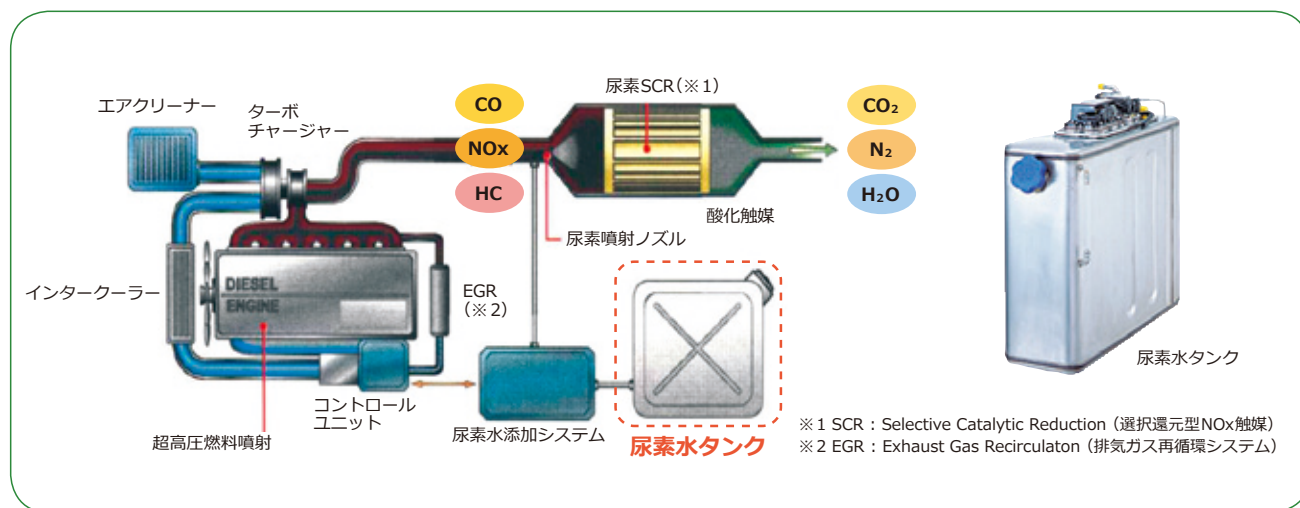
尿素水タンク 尿素SCRシステム

排気ガスに含まれる窒素酸化物(NOx)は高温、完全燃焼で発生しやすい性質を持っています。このNOxに尿素水を混ぜると無害な水と窒素に分解されます。尿素SCRはこのメカニズムを応用し触媒中に尿素水を噴射してNOxを大幅に低減させるシステムです。

尿素水タンクは尿素SCRシステムを支える重要なコンポーネント部品です。

尿素水タンクは防錆に優れたオールステンレス製タンクで、EGRクーラーやインタークーラー、アルミ製燃料タンク等と共にお客様の多彩なニーズに応えるべく開発された環境対応製品です。

車載用としては、世界で初めて量産化に成功し、高い耐久信頼性と耐腐食性を兼ね備えた製品です。



7 騒音防止 - 排気系部品の排気騒音低減

消音要素の要素技術の解析を行ない、そのメカニズムを解析した各種消音素子を組み合わせることにより、消音性能の高性能化を実現した排気系製品を開発しております。



8 LCA の取り組み (製品の環境影響評価)

カルソニックカンセイでは、製品における環境影響負荷を定量的に評価、把握することにより、製品企画の妥当性や開発計画の要否判断、及び製品の開発設計や生産工程での環境配慮の優先順位の設定等、今後の環境対応について適切な対応を図っていきたくと考えております。

今までの取り組みとして、既に製品別一台当りの工場別自社内製造環境負荷量を算出し、内製製品製造LCAデータとしてデータベース化を図りました。

また、車種製品で対象を決め、LCAを算出しています。06年度より、製品の環境面での評価を開発プロセスのなかでどのように評価し、位置付け運用していくのかの検討を本格的に開始し、07年度に製品ごとに製造段階で発生するCO₂排出量算出システムを構築しています。

製品には品質向上のために、その製品中およびその製品の製造段階で環境に影響（負荷）を与える化学物質が使用されます。そのため、製造段階、使用段階、使用後の廃棄段階で、環境に対して甚大な影響を及ぼすことが懸念されます。

また、グローバルでの環境意識の高まりとともに、国内外より有害化学物質の削減、低減、不使用への要請が年々強化されております。

このような背景のもと、カルソニックカンセイでは各国法規制の順守、お客様の要請を満足するためだけでなく、自主的な目標を設定し化学物質（環境負荷物質）の管理を推進いたします。

1 基本的な考え

“製品”、“製造工程”、“購入部品”、“副資材”の各分野毎に、「有害な物質はできるだけ使用しない」、「可能な限り削減、代替化をする」、「使用するときは適正に管理する」を基本とし、徹底したリスク管理を図っています。

製品の環境負荷物質対応	<ul style="list-style-type: none"> ●製品に使用している環境負荷物質の削減 ●製品に使用している環境負荷物質含有量情報の迅速な開示
工場での環境負荷物質対応	<ul style="list-style-type: none"> ●製造工程で使用している化学物質の排出削減 ●使用化学物質の適正管理
購入品の環境負荷物質対応	<p>グリーン調達の実運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ●購入品に使用している化学物質の確認 ●お取引先様の環境マネジメントレベルの確認

2 製品の環境負荷物質対応

製品に使用している環境負荷物質の含有量削減

カルソニックカンセイでは、各国での法規制に対応するだけでなく、自主的な目標を設定し、更に管理/フォロー体制の充実、代替技術の開発を推進し、製品に使用している環境負荷物質の削減に取り組んでいます。

■ 法規制等に対するカルソニックカンセイの取り組み

法規等			カルソニックカンセイの取り組み							
規制	対象物質	規制日程	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年
欧州ELV指令	4物質 (鉛、カドミ、水銀、六価クロム)	03年07月 以降禁止	対応完了 <small>一部の適用除外は除く</small>							
	六価クロム 防錆コーティング	07年07月 以降禁止	対応完了							
自主	車室内VOC関連13物質の削減/廃止		06年下期採用開始							
	鉛フリーはんだの採用		採用のために活動中							
欧州REACH規則	SVHC*		★6/1施行 対応活動中							

*SVHCとは(Substance of Very High Concernの略)高懸念物質のことで発ガン性物質など約1,500物質が指定される予定

車室内VOC低減対策についての取り組み

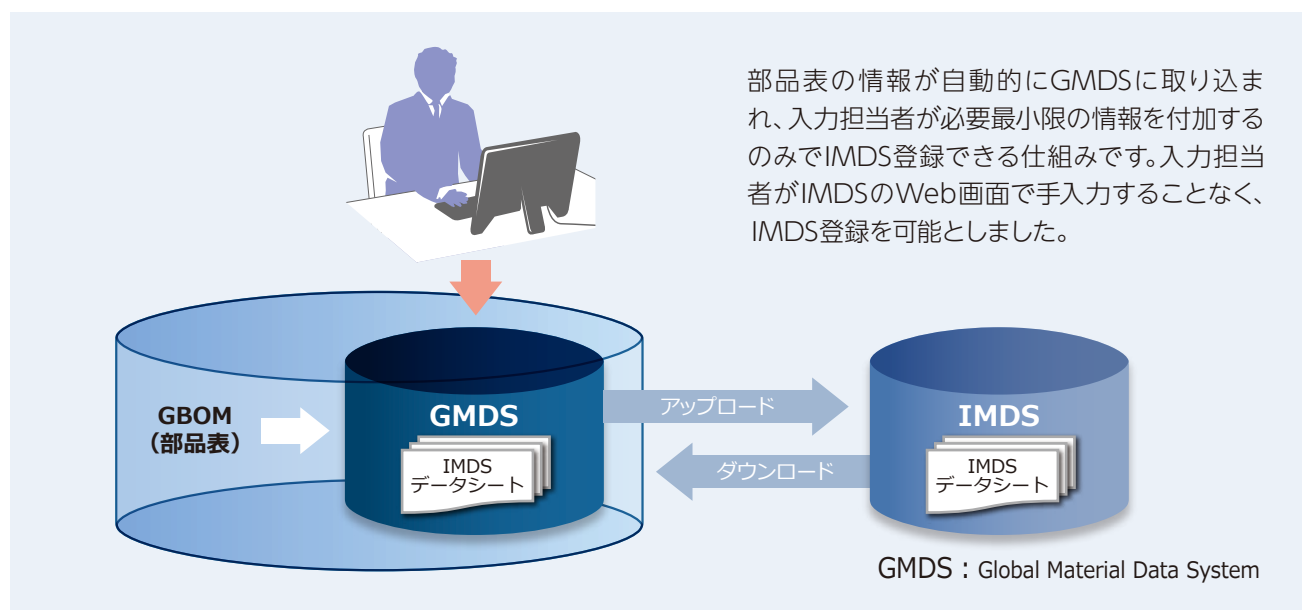
カルソニックカンセイでは、車室内の内装製品に使用される素材、接着剤、塗料等に含まれ、鼻・のどなどへの刺激の原因であるホルムアルデヒド・トルエン・キシレン等の揮発性有機化合物(VOC) 13物質に対し、削減、廃止の目標を設定し、車室内VOC低減対策に取り組みました。関連の素材と、塗料毎に削減、廃止の目標を設定し順次採用を拡大しています。

素 材	塗 料
<ul style="list-style-type: none"> ①ホルムアルデヒド等を含有しない素材の採用 ②トルエン・キシレンの含有量を抑えた接着剤の採用 	<ul style="list-style-type: none"> ①トルエン・キシレンの含有量を抑えた塗料 (TX フリー塗料) の開発 / 採用 ②溶剤をほとんど含有しない水性塗料の開発

製品に使用している環境負荷物質含有量情報の迅速な開示

当社のお客様である各自動車メーカーからは、当社を含むサプライヤに対し、禁止物質の不使用義務だけでなく、製品に使用している材料、物質データの報告が義務化されております。又、材料データの報告は殆どの自動車メーカーからIMDSによる報告を要請されております。

この要請に対してカルソニックカンセイでは、IMDS登録を支援するシステムとして、“GMDS”を開発、構築することにより、お客様への迅速な情報開示を図っております。



3 工場での環境対応

工場からの揮発性有機化合物(VOC)の大气排出量の削減

国内	各拠点毎に環境順守評価を実施しており、規制対象工場へのシンナー回収装置等の設置により、排出規制値をクリアし問題なく対応しています。
海外	海外拠点においては、低トルエン・低キシレン塗料への代替化を実施しております。

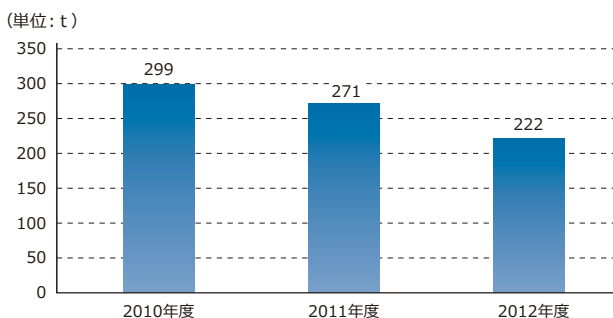
PRTR法への対応(カルソニックカンセイ+国内関連会社)

カルソニックカンセイグループでは、PRTR法該当物質の排出・移動量、使用量を把握し、環境負荷物質の削減を目的として、2010年を基点として、原単位で2016年までに6%削減することを目標に、該当物質含有塗料の代替等により削減を推進してまいります。

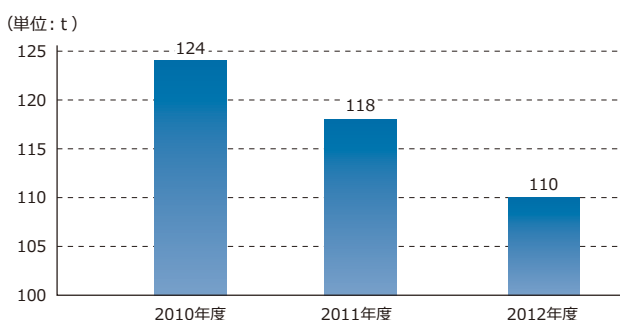
※ PRTR(Pollutant Release & Transfer Register、化学物質排出把握管理促進法:1999年公布)：環境汚染物質排出・移動登録



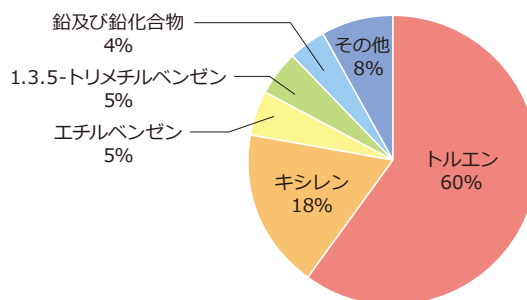
使用量 (カルソニックカンセイ+国内関連会社)



排出・移動量 (カルソニックカンセイ+国内関連会社)



2012年度排出・移動量 (総量110t)



PCBの管理

PCB入りの電気器具は法規に基づいた適正管理を実施し、特別管理廃棄物として早期PCB無害化処理予約を完了しており、一部拠点につきましては、処理を開始しております。

水質管理の徹底

自主管理目標値(法規制値の80%)を設定し、法規制より厳しい管理を徹底しています。

大気管理の徹底

燃料のA重油から特A重油(A重油に比較し硫黄成分が10%)への変更、燃烧エネルギーの天然ガスへの転換、及び省エネ活動による使用量自体の削減等により、CO₂低減の他、硫酸化合物(SO_x)の低減を実施することができました。

環境汚染事故や苦情について

2011年度より海外の環境事故について情報収集のルールをつくり、迅速に対応できるようにマネジメントしております。また、2012年度は外部へ影響を及ぼす環境事故が1件発生致しましたが、迅速な対応を行い被害を最小限にとどめております。事故発生後は早急に原因の究明を行い、是正対応策を講じております。(行政への報告は完了しております)

拠点	発生内容
カルソニックカンセイ タイランド社	排水中の油分基準値超過

土壤地下水の浄化と汚染防止の取り組み

既発工場に対する取り組み、未然防止対策、調査対策の徹底等、あらゆる局面に対する対応を図っています。

1 未然防止対策に対する取り組み

- ・燃料配管の地下化から地上化の変更。⇒全て完了しました。
- ・特A重油から天然ガス、LPGへの燃料転換。(CO₂削減も含む)

2 調査対策の徹底

関連会社を含め、各地区すでに土壤調査を実施しております。
また、関連会社としてグループ化するときは調査を実施しております。

4 購入品の環境負荷物質対応

グリーン調達推進

カルソニックカンセイでは、原材料、副資材、部品等、さまざまなものを調達しており、環境負荷物質の管理は、すべての調達品の管理が重要であると考えています。

法規制やお客様の要求を順守し策定した『カルソニックカンセイ・グリーン調達ガイドライン』をサプライヤーの皆様にご理解をいただき、サプライヤーの皆様と共同で社会的責任を果たすために“グリーン調達”を推進しています。

グリーン調達の運用

『カルソニックカンセイ・グリーン調達ガイドライン』で、管理化学物質を規定するとともに、購入品の含有化学物質の調査報告と、サプライヤーの皆様の環境マネジメントシステムの構築状況の評価を実施することを規定しております。

1 購入品（材料、部品、製品、副資材および梱包資材）の環境対応

- 購入品（材料、部品、製品、副資材および梱包資材）に含有されている物質の調査を実施いたします。
- 購入品（材料、部品、製品、副資材および梱包資材）に含有されている化学物質について、IMDSやMSDS等により、適合していることを証明できること。

2 環境マネジメントシステム構築状況の調査

- ①ISO14001等の環境マネジメントシステムの認証を取得している。
- ②ISO14001等の環境マネジメントシステムの認証取得を推進中であり、認証取得の具体的な計画日程が明確にされた計画があること。
- ③上記①②と同等の活動を実施している。

カルソニックカンセイグループは、生産活動で排出される環境負荷量を定量的に把握し、生産活動が環境に与える影響を十分に認識することにより環境負荷低減活動に取り組んでいます。

2012年度は京都議定書第一約束期間（2008～12）の最終年度であり、日本の目標値1990年度比6%削減に対して、2012年度で44.5%削減、5年間の平均で38.4%削減と目標を大幅に過達しました。

地球温暖化の視点から二酸化炭素（CO₂）排出量、排出原単位の削減、資源の有効活用の視点から100%再資源化によるごみゼロ化を推進し、環境に調和した地球にやさしいファクトリーを目指します。

また、2012年度も、2011年度と同様に「電力削減特別活動」と称し、グループ一丸となって取り組み、目標を大幅に上回る成果を上げ、エネルギーマネジメントを推進することができました。

1 地球温暖化の防止

2012年度は中期環境計画である“カルソニックカンセイグリーンプログラム2016”を掲げ、2016年の目標達成に向けて各種活動を推進してまいります。

1990～2012年度CO₂排出の推移(カルソニックカンセイ(株)+(株)CKK+(株)CKF)

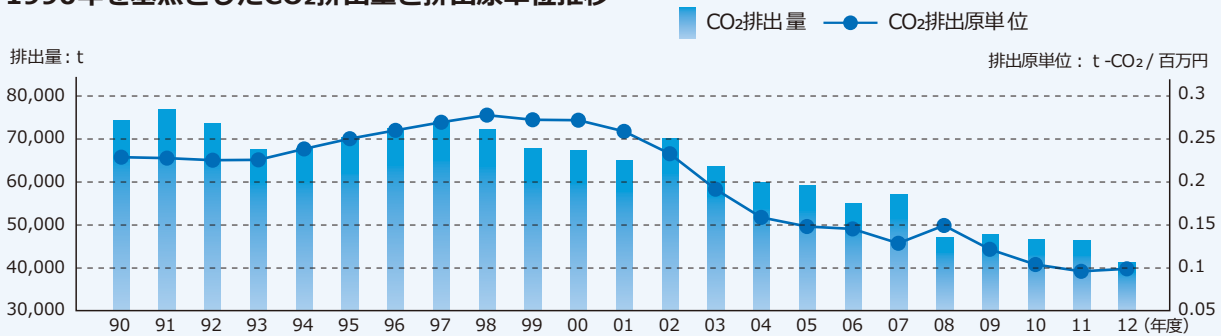
1 CO₂削減計画

1990年度を基点に2008～2012年平均で、CO₂排出量を7%、CO₂排出原単위를20%削減する。（日本自動車部品工業会・環境自主行動計画）

2 CO₂削減実績

1990年を基点に2012年でCO₂排出量を44.5%削減、CO₂排出原単위를56.9%削減しております。

1990年を基点としたCO₂排出量と排出原単위推移



管理項目	基点90年度実績	12年度実績	達成状況
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	74,391	41,250	44.5%削減
CO ₂ 排出原単위 (t-CO ₂ /百万円)	0.229	0.0988	56.9%削減

(電力のCO₂換算係数は基点の90年度と比較のため0.33を使用)

	1990	2008	2009	2010	2011	2012	08-12平均	1990年度比 08-12平均	1990年度比 FY12単年
CO ₂ 排出量; 係数固定 (t-CO ₂)	74,390	47,165	47,726	46,507	46,235	41,250	45,777	38.4%削減	44.5%削減
CO ₂ 排出量; 係数変動 (t-CO ₂)	74,390	55,470	52,261	49,672	60,461	59,680	55,509	25.4%削減	19.8%削減
原単위 t-CO ₂ /百万円 (係数固定)	0.2286	0.1492	0.1215	0.1038	0.0959	0.0988	0.1138	50.2%削減	56.9%削減
原単위 t-CO ₂ /百万円 (係数変動)	0.2286	0.1755	0.133	0.1109	0.1251	0.1428	0.1375	39.8%削減	37.5%削減
電力CO ₂ 換算係数 (t-CO ₂ /Mwh) (部工会原単위)	0.330	0.400	0.370	0.372	0.460	0.517	-	-	-

2012年度迄の活動概要(カルソニックカンセイ(株)+国内関連会社)

2005年度を基点に2016年までにCO₂排出原単位34.7%削減を目標としております。

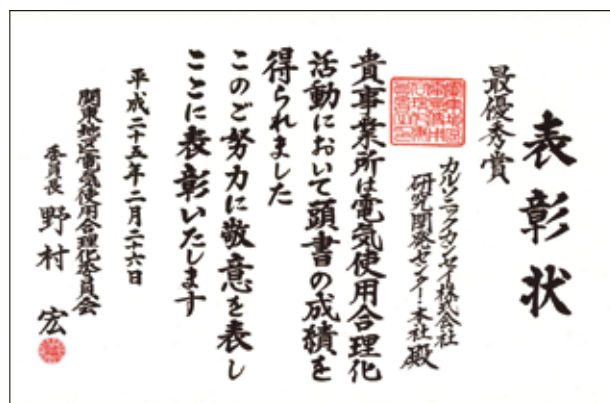
上記目標を達成する為に、2012年度は、2011年度に対して2%削減する目標を設定しております。その計画に対して実績では、削減活動を推進した結果、CO₂排出原単位5.0%増加、CO₂排出量9.4%削減となりました。

管理項目	基点 2005年度実績	11年度実績	12年度実績	達成状況	
				05年度比	前年度比
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	103,183	81,801	74,131	28.2%削減	9.4%削減
CO ₂ 排出原単位(t-CO ₂ /百万円)	0.2173	0.1480	0.1554	28.5%削減	5.0%増加

(電力のCO₂換算係数は基点の05年度と比較のため0.38を使用)

活動内容と振り返り

- ①全拠点参加の「省エネ特別活動」を展開し、省エネ診断や省エネ工学塾を実施して省エネ案件の抽出と改善を実施しました。しかし生産量減少の影響で結果的にはCO₂排出原単位が増加となりました。
- ②「省エネ特別活動」の成果として本社地区が関東地区電気使用合理化委員会より最優秀賞に選考され、埼玉県代表として受賞しました。(2013/2/26)



2012年度迄の活動概要(海外関連会社)

2005年度を基点に2016年までにCO₂排出原単位9.7%削減を目標としております。

上記目標を達成する為に、2012年度は、2011年度に対して2%削減する目標を設定しております。その計画に対して実績では、削減活動を推進したが、対前年比CO₂排出原単位2.9%削減となりました。

管理項目	基点 2005年度実績	11年度実績	12年度実績	達成状況	
				05年度比	前年度比
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	79,507	110,930	116,195	—	—
排出原単位(t-CO ₂ /百万円)	0.2919	0.2693	0.2615	10.4%削減	2.9%削減

(電力のCO₂換算係数は基点の05年度と比較のため0.38を使用)

活動内容と振り返り

海外拠点への省エネルギー診断実施

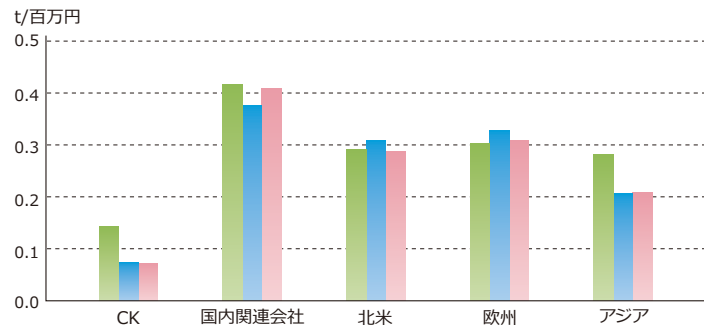
2012年度はアジア拠点において、日本の環境エネルギー管理部門と現地のエネルギー管理担当者によって相互の省エネルギーノウハウの理解を促進するとともに、省エネ診断を実施し弱点の改善を図りました。

2012年度各地域別CO₂発生状況

国内外関連会社のCO₂排出原単位実績を把握しております。

FY05 FY11 FY12

地域別CO₂排出原単位推移



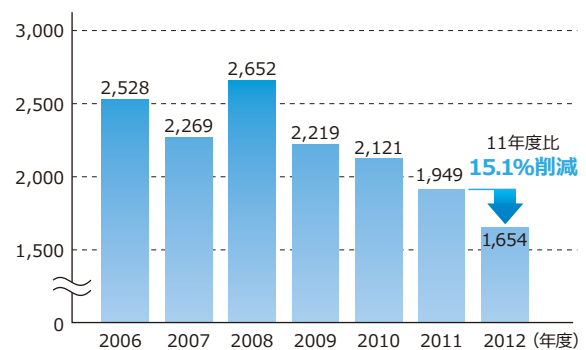
物流段階におけるトンキロ実績

右記実績は3,000万トンキロ以下であり届出等の対象外ですが、物流の削減計画を作成し、削減努力を実施しています。

活動内容と振り返り

- ①海外調達への推進による、国内拠点間輸送のミニマム化
- ②鉄道輸送への推進
- ③海上輸送化推進

(単位: 万tキロ)



2 省資源化活動

限りある地球資源を有効に活用するため、グループグローバル全拠点でのゼロエミッションの達成、維持活動を推進すると同時に、原材料使用量の抑制、排出物(廃棄物+有価物)発生量の抑制に努めています。

工場から排出される廃棄物資源化フロー

分別区分	種類	処理・処分方法	処分先	有効利用方法	再生品
廃油類 (揮発油、廃LLC含む) 他含油水等	→	油水分離	セメントメーカー 自社(燃料)	資源販売(再生重油)	燃料、セメント材、路盤材
			製紙メーカー	資源販売	トイレトーパー他
上質紙、新聞紙、雑誌	→	分別、溶解	製紙メーカー	資源販売	再生紙・ダンボール中芯他
ダンボール、機密紙、紙管	→	分別、溶解	製紙メーカー	資源販売	再生紙・ダンボール中芯他
鉄くず、空き缶	→	分別、溶解	金属精錬メーカー	製鋼材料	鉄、非鉄(銅、アルミ、ステンレス他)材
廃油(食廃油)	→	分離、再生	油脂メーカー	油脂メーカー社用車燃料、飼料	バイオディーゼル燃料、配合飼料
廃蛍光管	→	破碎、分離	素材メーカー	成分毎の再生材	再生材(水銀、ガラス、金属)
ガラスびん	→	分別、破碎	ガラスメーカー	ガラス材料	ガラスびん
廃プラスチック類(軟質)	→	破碎・減容固化	樹脂リサイクルメーカー	ボイラー燃料	固形燃料
廃油(含油ウエス)	→	焼却	廃熱ボイラ設置メーカー	廃熱利用(スチーム回収)	ボイラ燃料
廃プラスチック類	→	破碎、分離	総合リサイクルメーカー	分別、製鋼材料、燃料	鉄材料、固形燃料、燃料
金属くず(アルミ切粉含)	→	焼却溶融	高炉メーカー	高炉還元剤	製鋼材、路盤材(焼却残渣)
廃蛍光管(破碎物)					
感染性廃棄物					
ガラス陶磁器くず					
汚泥					
廃油(フィルター)					
汚泥(フラックス、砥石かす)	→	焼却	高炉メーカー	廃熱利用(高炉熱源) 高炉還元剤	路盤材(焼却残渣)
脱水汚泥(フィルタープレス)	→	分級	高炉メーカー	粒子材料加工	セメント原料
木くず	→	破碎	廃木材リサイクルメーカー	圧縮接合裁断	合成板(パーティクルボード)
剪定枝、刈り草	→	破碎・発酵	堆肥メーカー	堆肥材料	堆肥

2012年度迄の活動概要(カルソニックカンセイ+国内関連会社)

2005年度を基点に2016年までに排出物排出原単位28%削減を目標としております。

上記目標を達成する為に、2012年度は、2011年度に対して2%削減する目標を設定しております。その計画に対して実績では、削減活動を推進したが、対前年比排出原単位は0.3%増加しました。

管理項目	基点 2005年度実績	11年度実績	12年度実績	達成状況	
				05年度比	前年度比
排出物量(t)	17,433	14,892	12,911	—	—
排出物原単位(t/百万円)	0.0367	0.0270	0.0271	26.3%削減	0.3%増加

排出原単位=排出物総発生量/売上高

活動内容と振り返り

下記活動により排出物量は削減しましたが、生産量減少の影響で排出物原単位は増加しました。

- ①省資源活動事例の横展開を実施しました
- ②各工場でMTCR活動を推進し、工程不良低減を図りました

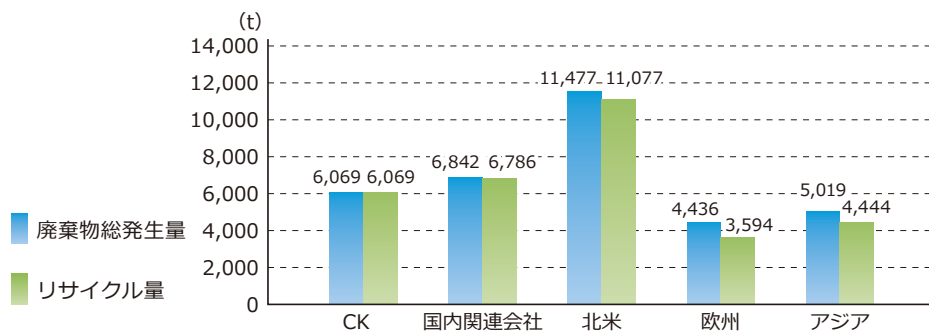
2012年度迄の活動概要(海外関連会社)

2010年度を基点に2016年までに排出物排出原単位6%削減を目標としております。

上記目標を達成する為に、2012年度は、2011年度に対して1%削減する目標を設定しております。その計画に対して実績では、削減活動を推進した結果、排出原単位は6.2%増加しました。

管理項目	基点 2010年度実績	11年度実績	12年度実績	達成状況	
				10年度比	前年度比
排出物量(t)	18,997	19,481	20,923	—	—
排出物原単位(t/百万円)	0.04923	0.04734	0.05029	2.1%増加	6.2%増加

2012年度各地域別排出物発生状況



活動内容と振り返り

- ・排出物削減案件の抽出と改善活動を展開しましたが、新規立ち上がり等の影響で結果として増加となりました。
- ・“ゼロエミッション”が遅れていた海外で、Zero Landfillの達成期限を2015年度と設定し活動の促進を図りました。
- ・カルソニックカンセイノースアメリカ社レイスバーク工場で埋立て廃棄物ゼロを達成し、テネシー州より表彰状を受賞しました。



(左) CKNAレイスバークで産業廃棄物ゼロ達成 (右)表彰状受賞

3 水資源投入量と低減対策

2012年度迄の活動概要(カルソニックカンセイ+国内関連会社)

2009年度を基点に2016年までに水使用量原単位 21.4%削減を目標としております。

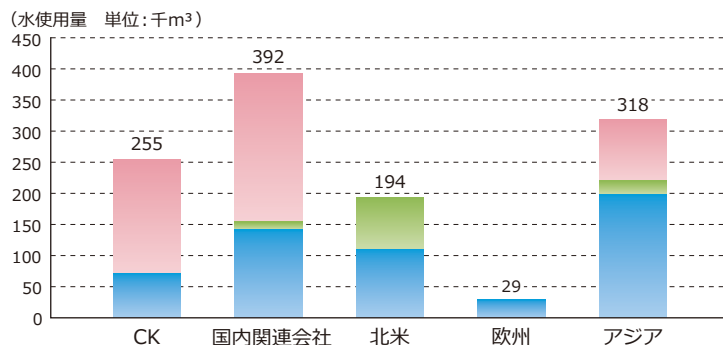
上記目標を達成する為に、2012年度は、2011年度に対して1%削減する目標を設定しております。その計画に対して実績では、削減活動を推進したが、使用量原単位は15.1%増加しました。

管理項目	基点 2009年度実績	11年度実績	12年度実績	達成状況	
				09年度比	前年度比
水使用量(千m ³)	734	651	647	—	—
排出原単位(m ³ /百万円)	1.643	1.178	1.356	17.5%削減	15.1%増加

活動内容と振り返り

以下の対策を講じることで、使用量は削減できましたが、生産量の減少と工程変更等の影響により原単位は増加となりました。
①漏水点検・チェック ②冷却水の循環利用

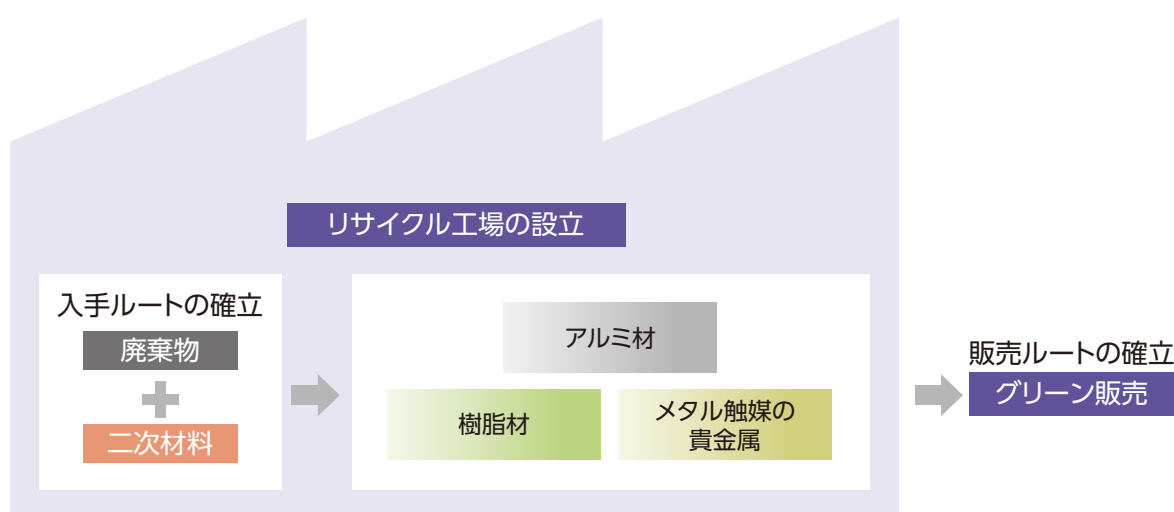
2012年度各地域別水資源使用状況



カルソニックカンセイでは、再資源化活動は自発的な環境保全への取り組みと位置付け、利益確保と相反する活動を一貫して取り組んで参りました。今後も、循環型社会のニーズに適應した、再資源化活動を推進いたします。

1 カルソニックカンセイのリサイクルシステム

カルソニックカンセイでは、外部へ委託する排出物の再資源化はもちろんのこと、グループ内においても再資源化に取り組んでおります。



2 2012 年度の活動

1 アルミ二次合金

工程より発生するアルミ端材等を回収しアルミ二次合金として再生し、関連会社のアルミ製品へリサイクルし資源循環として利用しています。

2 使用済み排気用触媒からの貴金属回収・リサイクル

回収した自動車排ガス浄化用触媒等から、“貴重な有価資源である貴金属を含んだ材料(ウオッシュコート)”を環境負荷の低い乾式分離装置により効率よく分離・回収しています。



使用済み排気用触媒



回収した粉末(貴金属を含む)



貴金属

	アルミ材回収再生量	排気用廃触媒回収量
2010年度実績	2,630t	13,052個
2011年度実績	2,350t	18,422個
2012年度実績	2,030t	21,075個

10 環境コミュニケーション Environmental Communication

カルソニックカンセイでは社会に対する環境面における情報の開示はもちろん、カルソニックカンセイを支える多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションにより、互いに親交を深め、信頼出来る社会構築に貢献しています。

1 地域・社会とのコミュニケーション

カルソニックカンセイグループの従業員一人ひとりが身近な環境課題と向き合うことにより、地域社会に対する貢献だけでなく、地域や社会の皆様とともに環境に配慮していきたいと考えております。

1 地域における環境コミュニケーションの開催

カルソニックカンセイ(株)児玉工場 (株)CKK 中津工場



工場近隣住民、事業者、行政等の関係者が環境リスクについて正しい情報を共有し、お互いの理解と信頼を深めるための取り組みとして、環境コミュニケーションを開催しました。



中津市今津地区の“ふれあい祭り”への参加、CKKの環境改善活動をアピールしました。

カルソニックカンセイ・ノースアメリカ社(アメリカ)



地域コミュニティと一緒にクリーン活動に参加しました。

2 地元学生による工場見学およびインターンシップ(就業体験)

カルソニックカンセイ(株)群馬工場



高等養護学校2年生1名の職場体験実習を行いました。

カルソニックカンセイ(株)吉見工場



県内小学5年生(80名)の工場見学の受け入れ、工場概要説明と省エネの取り組み等の説明を実施しました。

カルソニックカンセイ・ユーク社(イギリス)



地元学生を招待し、会社概要・製品等の説明をするイベントを開催しました。

3 世界環境デー

カルソニックカンセイ・タイランド社(タイ)



2012年は植樹し、緑地を増やしました。



植樹用の苗木

4 サプライヤーへの環境活動支援

東京ラヂエーター製造(株)



5月10日(木)に開催した2012年サプライヤー会議にてFY12 環境方針を説明し、引き続きの協力を要請した。

5 地域クリーン活動

カルソニックカンセイ(株) 追浜工場 (株) CKP



平潟湾&追浜工場敷地外の清掃を実施しました。



工業団地内の定期的な清掃を行っています。

CKGH カルソニックカンセイ(広州)社(中国)



東風日産生産ラインと周辺清掃を実施しました。

カルソニックカンセイ(株) 追浜工場 湘南モジュール



日産車体(株)平塚2地区工場外歩道と道路脇を清掃しました。

カルソニックカンセイ宇都宮(株)



一斉清掃活動日の昼休みを利用して会社周辺のゴミ拾い・除草作業等実施しました。

CKGC カルソニックカンセイ(広州)コンポーネッツ社(中国)



会社周囲の清掃を行っています。

6 ボランティア活動

カルソニックカンセイ岩手(株)



東日本大震災被災地の草刈ボランティアに参加しました。

2 株主への説明

事業報告書に当社の環境への取り組みを記載し、株主に対し環境保全活動を積極的にPRしています。

3 コミュニティパートナーシップ活動 & グリーンパートナーシップ活動

2008年度より、生産部門における環境の取り組みとしてコミュニティパートナーシップ活動&グリーンパートナーシップ活動を開始いたしました。

各活動を充実度(%)であらわし、評価項目及び持点は下記の様に設定しております。

2010年において、充実度100%達成が完了いたしましたので、今後は維持継続を進めてまいります。

1 コミュニティパートナーシップ活動

工場隣接地域に対する環境の取り組みをアピールする活動

評価項目	基準評価点
会社のホームページにてサイトの情報を積極的に発信している	25点
工場見学者への環境の取り組みを説明している	25点
外部講演の場で環境の取り組みを説明している	25点
環境に関する地域貢献活動をしている	25点
合計点	100点

2 グリーンパートナーシップ活動

3つの環境クリーンチェーン活動および事故防止活動を協力会社とも連携し取り組む活動

評価項目	基準評価点
機内に入る全ての協力会社を対象とした取り組みをしている	20点
環境事故防止、3つのクリーンチェーン活動を協力依頼している	20点
協力依頼の仕組みが基準化され運用されている	50点
活動促進の仕組みがある	10点
合計点	100点

3つの環境クリーンチェーン

- No.1** CO₂ マネジメントによるCO₂削減
- No.2** 生産プロセスにおける資源の有効利用
- No.3** エミッションマネジメントによる塗装VOC等の排出削減

4 社会とのコミュニケーション

企業の環境活動については、企業自身がその活動及び成果をタイムリーに開示することが企業としての責務と考えております。ホームページによる環境報告書の開示やIRでの説明等、多様な層に幅広くPRを行っております。

■カルソニックカンセイの環境に対する取り組みをWebサイトで公開しております。

URL <http://www.calsonickansei.co.jp/>

5 従業員とのコミュニケーション

1 社内コミュニケーション

当社及び関連会社の従業員に向けて、イントラネットや教育を通じて、タイムリーな環境情報提供を行っております。

2 オフィスでの取り組み

クールビズ及びウォームビズの実施により、エネルギー消費量を抑制して地球温暖化の防止に努めております。

11 環境パフォーマンスデータ

カルソニックカンセイ(株)

群馬工場

所在地: 群馬県邑楽郡邑楽町
新中野132

敷地: 224,781m²

建物: 64,352m²

主要製品: エアコンユニット、コンデンサー、エキゾースト製品、メタル担体



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	6.5~8.5	7.1	7.9
SS	30mg/l以下	6.4	22.3
BOD	20mg/l以下	4.5	12.2
N-Hex	3mg/l以下	1.8	
フッ素	8mg/l以下	0.6	1.0
亜鉛	2mg/l以下	0.1以下	0.3
リン	16mg/l以下	0.2	0.5
窒素	120mg/l以下	1.6	3.9
銅	3mg/l以下	0.1以下	
ニッケル	—	—	—
鉄	5mg/l以下	0.1以下	0.6
COD	—	—	—
大腸菌	3000個以下	33	210
ジクロロメタン	0.2mg/l以下	0.02以下	
総排水量		48.7(千m ³)	
排水先		河川放流(利根川支流)	
BOD平均		8.3(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.4(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		16,003(t)	

追浜工場

所在地: 神奈川県横須賀市
夏島町18

敷地: 22,514m²

建物: 17,434m²

主要製品: エキゾースト製品



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	7.3	7.8
SS	300mg/l以下	1.0以下	2.8
BOD	300mg/l以下	1.0以下	1.7
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	1.0mg/l以下	0.1以下	0.6
リン	6.25mg/l以下	0.1以下	0.1
窒素	50mg/l以下	2.1	4.5
銅	1.0mg/l以下	0.1以下	0.5
ニッケル	1.0mg/l以下	0.1以下	
鉄	3mg/l以下	0.1	0.7
COD	—	—	—
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		8.6(千m ³)	
排水先		下水道	
BOD平均		1.1(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.01(t)	
SO _x		—	
NO _x		0.162(t)	
ばいじん		0.032(t)	
CO ₂		1,546(t)	

カルソニックカンセイ(株)

吉見工場

所在地: 埼玉県比企郡吉見町
大字久米田628

敷地: 141,784m²

建物: 49,700m²

主要製品: インストルメントパネル、センターコンソール



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	7.0	7.5
SS	90mg/l以下	2.0	11.6
BOD	25mg/l以下	1.0以下	3.5
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	8mg/l以下	2.9	6.3
窒素	60mg/l以下	7.9	23.2
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	60mg/l以下	6.6	13.6
大腸菌	3000個以下	0	130
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		30.3(千m ³)	
排水先		河川放流(市ノ川支流)	
BOD平均		2.2(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.07(t)	
SO _x		都市ガスとLPGのためS分無し	
NO _x		1.18(t)	
ばいじん		0.011(t)	
CO ₂		5,040(t)	

児玉工場

所在地: 埼玉県本庄市児玉町
共栄540-7

敷地: 51,168m²

建物: 15,838m²

主要製品: 電子コントロールユニット



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	7.0	7.9
SS	60mg/l以下	5.0	19.0
BOD	25mg/l以下	2.0	9.0
N-Hex	30mg/l以下	3.0以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	160mg/l以下	3.0	11.0
大腸菌	3000個以下	30以下	
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		10.4(千m ³)	
排水先		河川放流(利根川支流)	
BOD平均		4.4(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.05(t)	
SO _x		0.062(t)	
NO _x		0.671(t)	
ばいじん		0.006(t)	
CO ₂		3,135(t)	

カルソニックカンセイ(株)

実験研究センター

所在地: 栃木県佐野市栄町8
敷地: 73,829m²
建物: 47,141m²



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.0~9.0	6.8	8.4
SS	600mg/l以下	1.0以下	169.0
BOD	600mg/l以下	1.0以下	148.0
N-Hex	5mg/l以下	1.0以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		56.1(千m ³)	
排水先		下水道、三杉川	
BOD平均		27.2(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		1.53(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		6,921(t)	

研究開発センター・本社

所在地: 埼玉県さいたま市北区
日進町2-1917
敷地: 33,047m²
建物: 10,704m²



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.0~9.0	7.0	7.5
SS	600mg/l以下	159.0	278.0
BOD	600mg/l以下	54.6	256.0
N-Hex	30mg/l以下	—	—
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	32mg/l以下	3.0	5.3
窒素	240mg/l以下	9.7	19.9
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		27.2(千m ³)	
排水先		下水道	
BOD平均		143.5(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		3.9(t)	
SO _x		0.000(t)	
NO _x		0.141(t)	
ばいじん		0.000(t)	
CO ₂		2,154(t)	

国内関連会社

(株)CKK(本社・宇佐工場)

所在地: 大分県宇佐市大字
和気111
敷地: 99,146m²
建物: 19,427m²
主要製品: インストルメントパネル



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	6.0~8.6	7.3	8.0
SS	60mg/l以下	2.0	18.0
BOD	60mg/l以下	1.0以下	1.0
N-Hex	2mg/l以下	1.0以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	60mg/l以下	3.0	7.0
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		7.2(千m ³)	
排水先		河川放流(寄藻川)	
BOD平均		1(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.007(t)	
SO _x		0.246(t)	
NO _x		0.642(t)	
ばいじん		0.025(t)	
CO ₂		6,566(t)	

(株)CKK(中津工場)

所在地: 大分県中津市大字
犬丸150-3
敷地: 48,646m²
建物: 17,803m²
主要製品: エアコンユニット、ラジエーター、エキゾースト製品



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	6.0~8.5	6.3	7.5
SS	30mg/l以下	1.0以下	14.0
BOD	30mg/l以下	0.7	11.0
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	0.67
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	8mg/l以下	0.42	5.5
窒素	60mg/l以下	2.8	28.0
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	3000個以下	0	5.0
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		(生活系浄化槽のみ) 8.6(千m ³)	
排水先		河川放流(犬丸川)	
BOD平均		4.4(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.04(t)	
SO _x		0.116(t)	
NO _x		0.245(t)	
ばいじん		0.018(t)	
CO ₂		8,799(t)	

国内関連会社

(株)CKF(本社・二本松工場)

所在地: 福島県二本松市住吉5-1
敷地: 68,400m²
建物: 13,800m²
主要製品: メーター、タンクユニット、各種センサー、スイッチ



条例・協定	福島県条例、二本松市条例	実績	
		最小	最大
排水規制項目	規制値		
pH	5.8~8.6	7.1	7.4
SS	70mg/l以下	1.6	6.0
BOD	25mg/l以下	1.0以下	6.6
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	0.6
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	3000個以下	0	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		14.6(千m ³)	
排水先		河川放流(阿武隈川支流)	
BOD平均		2.4(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.04(t)	
SO _x		LPGのためS分無し	
NO _x		0.321(t)	
ばいじん		0.035(t)	
CO ₂		3,475(t)	

(株)CKF(棚倉工場)

所在地: 福島県東白川郡棚倉町大字上台行人塚12-1
敷地: 21,682m²
建物: 4,781m²
主要製品: タンクユニット、回転センサー



条例・協定	福島県条例、棚倉町条例	実績	
		最小	最大
排水規制項目	規制値		
pH	5.8~8.6	7.0	7.3
SS	200mg/l以下	1.0以下	1.6
BOD	160mg/l以下	1.0以下	3.8
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	0.6
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	3000個以下	0	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		2.3(千m ³)	
排水先		河川放流(阿武隈川支流)	
BOD平均		1.6(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.004(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		531(t)	

国内関連会社

(株)CKF(福島工場)

所在地: 福島県福島市荒井字山道11-1
敷地: 8,512m²
建物: 4,970m²
主要製品: 樹脂成形部品、シロココファン、ガソリンキャップ、オイルキャップ



条例・協定	福島県条例、福島市条例	実績	
		最小	最大
排水規制項目	規制値		
pH	5.8~8.6	7.4	7.8
SS	200mg/l以下	2.2	12.0
BOD	160mg/l以下	10.0	11.0
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	3000個以下	0	3
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		0.9(千m ³)	
排水先		河川放流(阿武隈川支流)	
BOD平均		10.5(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.01(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		1,083(t)	

東京ラヂエーター製造(株)

所在地: 神奈川県藤沢市遠藤2002-1
敷地: 88,254m²
建物: 41,004m²
主要製品: ラジエーター、EGRクーラー、オイルクーラー、インタークーラー、燃料クーラー、オイルパン、バキュームタンク、燃料タンク、SCRタンク等



条例・協定	神奈川県条例、藤沢市緑化協定	実績	
		最小	最大
排水規制項目	規制値		
pH	5.8~8.6	7.1	7.6
SS	90mg/l以下	1.0以下	2.4
BOD	60mg/l以下	1.0以下	9.0
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	2.7
フッ素	8mg/l以下	0.5	4.5
亜鉛	2mg/l以下	0.1以下	
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	60mg/l以下	4.4	17.8
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		209(千m ³)	
排水先		河川放流(一色川)	
BOD平均		3.6(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.75(t)	
SO _x		都市ガスのためS分無し	
NO _x		0.38(t)	
ばいじん		0(t)	
CO ₂		10,755(t)	

国内関連会社

(株)CKP(佐野工場1地区)

所在地: 栃木県佐野市高萩町
字石原765番地

敷地: 12,012m²

建物: 5,670m²

主要製品: 樹脂成形部品、インテーク、
モーターファン、リキッド
タンク、リリーフバルブ



条例・協定	栃木県条例、佐野市条例	
排水規制項目	規制値	実績
pH	5.0~9.0	7.0
SS	600mg/l以下	1.0以下
BOD	600mg/l以下	1.7
N-Hex	5mg/l以下	1.0以下
フッ素	—	—
亜鉛	—	—
リン	—	—
窒素	—	—
銅	—	—
ニッケル	—	—
鉄	—	—
COD	—	—
大腸菌	—	—
ジクロロメタン	—	—
総排水量		5.6(千m ³)
排水先		河川放流(三杉川支流)
BOD平均		1.7(mg/l)
汚染負荷量(BOD)		0.01(t)
SO _x		—
NO _x		—
ばいじん		—
CO ₂		2,352(t)

(株)CKP(本社・佐野工場2地区)

所在地: 栃木県佐野市栄町14-4

敷地: 9,010m²

建物: 5,741m²

主要製品: プレス部品、ラジエー
ターキャップ、カップホル
ダー、スイッチ類、内装
品組立



条例・協定	栃木県条例、佐野市条例、下水道法	
排水規制項目	規制値	実績
pH	5.0~9.0	7.4
SS	600mg/l以下	1.0以下
BOD	600mg/l以下	1.0以下
N-Hex	5mg/l以下	1.0以下
フッ素	—	—
亜鉛	—	—
リン	—	—
窒素	—	—
銅	—	—
ニッケル	—	—
鉄	—	—
COD	—	—
大腸菌	—	—
ジクロロメタン	—	—
総排水量		3.3(千m ³)
排水先		下水道
BOD平均		1.0(mg/l)
汚染負荷量(BOD)		0.003(t)
SO _x		—
NO _x		—
ばいじん		—
CO ₂		588(t)

国内関連会社

(株)CKP(板倉工場)

所在地: 群馬県邑楽郡板倉町
大字大蔵字太居7番

敷地: 16,500m²

建物: 4,161m²

主要製品: ヒーターエアコン用集中
スイッチ、コントロール、
電子基盤



条例・協定	群馬県条例、板倉町協定		
排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	6.4	
SS	15mg/l以下	4.0	
BOD	15mg/l以下	10.0	
N-Hex	3mg/l以下	1.0以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	1000個以下	30以下	
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		5.9(千m ³)	
排水先		河川放流(渡良瀬川支流)	
BOD平均		10(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.06(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		1,428(t)	

(株)CKP(栃木工場)

所在地: 栃木県下野市下古山
144番地1

敷地: 18,886m²

建物: 10,497m²

主要製品: 自動車用内装樹脂部品、
インストルメントパネ
ル、コンソール等



条例・協定	栃木県条例、下野市協定		
排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	6.9	
SS	50mg/l以下	1.6	3.6
BOD	30mg/l以下	1.8	2.7
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	30mg/l以下	2.9	3.4
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		6.4(千m ³)	
排水先		河川放流(姿川)	
BOD平均		2.3(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.01(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		2,019(t)	

国内関連会社

カルソニックカンセイ宇都宮(株)

所在地: 栃木県宇都宮市
清原工業団地 11-6

敷地: 66,100m²

建物: 20,864m²

主要製品: カーエアコン用コンプレッサー、部品



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	6.8	7.8
SS	40mg/l以下	1.0	6.4
BOD	20mg/l以下	1.0	13.8
N-Hex	5mg/l以下	0.5	0.6
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	20mg/l以下	4.8	15.7
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		2.8(千m ³)	
排水先		清原工業団地終末処理場経由、鬼怒川	
BOD平均		6.5(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.02(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		2,296(t)	

カルソニックカンセイ岩手(株)

所在地: 岩手県北上市和賀町
壱川目1-27-5

敷地: 23,410m²

建物: 9,742m²

主要製品: カーエアコン用コンプレッサー



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	6.2	7.6
SS	200mg/l以下	2.0	11.0
BOD	160mg/l以下	1.5	28.0
N-Hex	5mg/l以下	0.5	
フッ素	8mg/l以下	0.02	0.12
亜鉛	2mg/l以下	0.037	0.077
リン	16mg/l以下	3.8	6.1
窒素	120mg/l以下	45.0	56.0
銅	3mg/l以下	0.008	0.013
ニッケル	—	—	—
鉄	10mg/l以下	0.06	0.08
COD	160mg/l以下	6.7	32.0
大腸菌	3000個以下	30	1100
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		9.8(千m ³)	
排水先		河川放流(和賀川)	
BOD平均		11.8(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.12(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		4,115(t)	

国内関連会社

カルソニックカンセイ山形(株)

所在地: 山形県寒河江市
中央工業団地 190番地

敷地: 10,616m²

建物: 5,077m²

主要製品: アルミダイキャスト、部品加工



排水規制項目	規制値	実績	
		最小	最大
pH	5.8~8.6	6.6	7.1
SS	200mg/l以下	2.8	28.8
BOD	160mg/l以下	2.0	11.1
N-Hex	5mg/l以下	0.5以下	1.3
フッ素	—	—	—
亜鉛	—	—	—
リン	—	—	—
窒素	—	—	—
銅	—	—	—
ニッケル	—	—	—
鉄	—	—	—
COD	—	—	—
大腸菌	—	—	—
ジクロロメタン	—	—	—
総排水量		18.8(千m ³)	
排水先		寒河江川	
BOD平均		5.7(mg/l)	
汚染負荷量(BOD)		0.11(t)	
SO _x		—	
NO _x		—	
ばいじん		—	
CO ₂		4,438(t)	

あとかき

カルソニックカンセイグループ 『環境報告書 2013』を ご覧いただき、ありがとうございました。

2012年度一年間のカルソニックカンセイグループの環境保全活動に関する取り組みを『環境報告書 2013』としてまとめました。編集にあたりましては「読者の皆様に対して、本報告書で当社の環境保全活動が可能な限り伝わるようわかり易くまとめること」「関連のガイドラインに沿った内容で、実態に即したありのままの活動の姿を記述すること」に努力いたしました。また、環境保全の観点から冊子の発行を廃止しております。今後も、環境報告書を通じて皆様方とのコミュニケーションを密接にしていきたいと考えております。

2013年9月

発行
カルソニックカンセイ(株)
環境エネルギー統括管理グループ
〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2丁目1917番地
2013年9月(年1回発行)

次回発行予定
2014年9月

問合せ先
本環境報告書に関するお問い合わせ先
カルソニックカンセイ(株)
環境エネルギー統括管理グループ
TEL:048-660-2363 FAX:048-661-1012

本環境報告書はカルソニックカンセイ・ホームページ上でもご覧になれます。
<http://www.calsonickansei.co.jp/>

カルソニックカンセイ株式会社／研究開発センター・本社
〒331-8501 埼玉県さいたま市北区日進町2-1917